

対象校No.

注4

学校コード F113310103000

注3

設置年度

令和

4年度

計画の区分： 学部を設置

注1

認可

注2

國學院大學

観光まちづくり学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正後大学設置基準適用)

学校法人國學院大學
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

たまプラーザ事務部
たまプラーザ事務課

職名・氏名

カチョウ オオヤヒデヒロ
課長・大矢英広

電話番号

045-904-7700

(夜間)

045-904-7700

e-mail

soumu_t@kokugakuin.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

観光まちづくり学部

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	17
5. 教育研究実施組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人國學院大學

(2) 大 学 名 國學院大學

(3) 調査対象大学等の位置

〒225-0003
神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22番地1
(〒150-8440)
(東京都渋谷区東四丁目10番28号)

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(サナギ ショウゾウ) 佐柳 正三 (平成31年4月8日)		
学 長	(ハリモト マサユキ) 針本 正行 (平成31年4月1日)		
学 部 長	(ニシムラ ユキオ) 西村 幸夫 (令和4年4月1日)		
学科長等	(ウメカワ トモヤ) 梅川 智也 (令和4年4月1日)		副学部長

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 学士(観光まちづくり)	社会学・社会福祉学関係	4年	300人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	1,200人		

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	300人 (-) [5]	人 (-) [-]	300人 (-) [5]	人 (-) [-]	300人 (-) [5]	人 (-) [13]	300人 (-) [-]	人 (-) [-]	- 春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳	1.06倍	-	
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	2,494 (-) [0]	- (-) [-]	2,083 (-) [2]	- (-) [-]	2,137 (-) [6]	- (-) [-]	2,719 (-) [4]	- (-) [-]				
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	2,453 (-) [0]	- (-) [-]	2,032 (-) [2]	- (-) [-]	2,087 (-) [6]	- (-) [-]	2,653 (-) [4]	- (-) [-]				
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	789 (-) [0]	- (-) [-]	785 (-) [1]	- (-) [-]	690 (-) [1]	- (-) [-]	714 (-) [2]	- (-) [-]				
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	301 (-) [0]	- (-) [-]	360 (-) [1]	- (-) [-]	313 (-) [1]	- (-) [-]	328 (-) [1]	- (-) [-]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	1.00	-	1.20	-	1.04	-	1.09	-				

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用) IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	301 [0] (0)	— [—] (—)	356 [1] (1)	— [—] (—)	314 [1] (2)	— [—] (—)	329 [1] (1)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	293 [0] (0)	— [—] (—)	354 [1] (5)	— [—] (—)	321 [1] (11)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	287 [0] (—)	— [—] (—)	350 [1] (11)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	281 [0] (—)	— [—] (—)	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	301 [0] (0)	[] ()	649 [1] (1)	[] ()	955 [2] (7)	[] ()	1,281 [3] (23)	[] ()	

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	301 人	4 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	4 人	0 人	他大学入学(2名)、一身上の都合(2名)
令和5年度	649 人	8 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	2 人	0 人	他大学入学(1名)、修学意欲喪失(1名)
			令和5年度	6 人	0 人	修学意欲喪失(1名)、家庭の事情(1名)、他大学入学(1名)、他学部への転部(3名)
令和6年度	955 人	8 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	3 人	0 人	病気療養(1名)、修学意欲喪失(2名)
			令和5年度	2 人	0 人	死亡(1名)、心身耗弱(1名)
			令和6年度	3 人	0 人	他大学入学(1名)、他学部への転部(2名)
令和7年度	1281 人	0 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合 計		20 人		20 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{4}{305} = \boxed{1.31} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{8}{657} = \boxed{1.21} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{8}{963} = \boxed{0.83} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{1281} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜観光まちづくり学部 観光まちづくり学科＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			基幹教員等の配置							基 幹 教 員 等 の 配 置 に 関 する 注 意 事 項
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	他	小計	
共通 教育 科目	神道と文化	1 前	2									2	
	国学院の学び(国学院大学の歴史と未来)	1・2 前	2									1	
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2 後	2									1	
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2 後	2									1	
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2 後	2									1	
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2 後	2									1	
	Japan Studies	2・3 前	2									1	
	小計(7科目)	-	2	12	0	0	0	0	0	0	0	7	
	基礎日本語	1・2 後	2									1	
	英語 I	1 前	2									5	
	英語 II	1 後	2									5	
	英語 III	2 前	2									5	
	英語 IV	2 後	2									5	
	ドイツ語 I	1 前	2									2	
	ドイツ語 II	1 後	2									2	
S T E M 系 科 目 群	フランス語 I	1 前	2									2	
	フランス語 II	1 後	2									2	
	中国語 I	1 前	2									3	
	中国語 II	1 後	2									3	
	ロシア語 I	1 前	2									2	
	ロシア語 II	1 後	2									2	
	スペイン語 I	1 前	2									1	
	スペイン語 II	1 後	2									1	
	小計(15科目)	-	8	22	0	0	0	0	0	0	0	20	
	コンピュータと情報 I	1・2 前・後	2									2	
	コンピュータと情報 II	1・2 後	2									1	
	情報科学入門	1・2 前	2									1	
	地球環境と人間	1・2 後	2									1	
	宇宙物理学入門	1・2 前	2									1	
	科学的思考法	1・2 後	2									1	
シ ン ジ ン グ ル 系 科 目 群	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	4	
	法学(日本国憲法)	1・2 前	2									1	
	法と社会参加(企業での活動と法)	1・2 後	2									1	
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1・2 後	2									1	
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2 前	2									1	
	小計(4科目)	-	0	8	0	0	0	0	0	0	0	4	
	比較文化論 I	1・2 後	2									1	
	日本の経済	1・2 前	2									1	
	経済理論入門	1・2 後	2									1	
	経済経営数学入門	1・2 前	2									1	
	経済学史入門	1・2 後	2									1	
	小計(5科目)	-	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3	
	スポーツ実技A	1・2 前	1									2	
	スポーツ実技B	1・2 後	1									2	
	スポーツ科学論	1・2 後	2									1	
専 門 教 育 科 目	小計(3科目)	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5	
	社会学概論	1 前	2			2			1	1			
	まちづくりと観光	1 前	2			1				1			
	小計(2科目)	-	4	0	0	1	3	0	1	2	0		
	社会調査法入門	1 前	2			1				1			
	統計分析の基礎	1 後	2			1							
	プログラミングと数学基礎	1 後	2					1					
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3 前	2			1							
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3 後	2			1							
	データサイエンス	2・3 後	2					1					
	質的調査法	2・3 後	2									1	
	多変量解析	3 前	2									1	
	地理空間情報分析	3 前	2					1					
	小計(9科目)	-	2	18	0	2	1	2	0	1	2		
演 習 科 目	導入ゼミナール	1 前	2			13	6	1					
	観光まちづくり演習 I (調査手法)	2 前	2			1	3	2		5	1		
	観光まちづくり演習 II (地域分析)	2 後	4			15	8	3	1	5			
	観光まちづくり演習 III (構想・提案)	3 前	4			14	8	3	1	5			
	専門ゼミナール	3 通	2			16	9	3	1				
	卒業研究	4 通	4			16	9	3	1				
	基礎ゼミナールA	1 後	2			8	8	1	1				
	基礎ゼミナールB	2 前	2			11	3	3					
	小計(8科目)	-	18	4	0	17	9	3	1	5	1		
	文化社会学	1 後	2						1				
	コミュニケーション論	1 後	2					1					
	地域と環境の社会学	2 前	2					1					
	グローバルゼーション論	2 前	2										
展 開 科 目	基礎Ⅰ類(社会)	2 前	2										
	基礎Ⅱ類(資源)	1 後	2			3				1			
	博物館概論	1 後	2					1					
	都市建築史	2 前	2			1							
	民俗学概論	2 前	2			1							
	保全生態学概論	2 前	2			2							
	公共政策概論	1 後	2			1				1			
	地方自治概論	2 前	2					1					
	地域デザイン論	2 前	2					1					
	国土・都市計画論	2 前	2			1							

【令和7年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	主要授 業科目	単位数			基幹教員等の配置							（他 手 外 教 員 等 の 配 置 ）	
					必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	他			
共通 教育 科目	国 学 院 科 目 群	神道と文化	1前		2										2	
		国学院の学び(国学院大学の歴史と未来)	1・2前		2										1	
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2後		2										1	
		日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2後		2										1	
		日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2後		2										1	
		日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2後		2										1	
		Japan Studies	2・3前		2										1	
		小計(7科目)	-		2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
	言 語 ス キ ル 科 目 群	日本語 アカデミック・リテラシーⅠ	1・2後		2										1	
		英語Ⅰ	1前		2										5	
		英語Ⅱ	1後		2										5	
		英語Ⅲ	2前		2										5	
		英語Ⅳ	2後		2										5	
		ドイツ語Ⅰ	1前		2										2	
		ドイツ語Ⅱ	1後		2										2	
		フランス語Ⅰ	1前		2										2	
		フランス語Ⅱ	1後		2										2	
		中国語Ⅰ	1前		2										3	
		中国語Ⅱ	1後		2										3	
		ロシア語Ⅰ	1前		2										2	
		ロシア語Ⅱ	1後		2										2	
		スペイン語Ⅰ	1前		2										1	
		スペイン語Ⅱ	1後		2										1	
	小計(15科目)	-		8	22	0	0	0	0	0	0	0	0	20		
	S T E M 系 科 目 群	コンピュータと情報Ⅰ	1・2前・後		2										2	
		コンピュータと情報Ⅱ	1・2後		2										1	
		情報科学入門	1・2前		2										1	
地球環境と人間		1・2後		2										1		
宇宙物理学入門		1・2前		2										1		
科学的思考法		1・2後		2										1		
小計(6科目)		-		0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
法學(日本国憲法)		1・2後		2										1		
法と社会参加(企業での活動と法)		1・2後		2										1		
政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)		1・2前		2										1		
行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2前		2										1			
小計(4科目)	-		0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	4			
専 門 教 養 科 目 群	比較文化論Ⅰ	2前		2										1		
	日本の経済	1・2前		2										1		
	経済理論入門	1・2前		2										1		
	経済経営数学入門	1・2前		2										1		
	経済学史入門	1・2前		2										1		
	小計(5科目)	-		0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	スポーツ実技A	1・2前		1										2		
スポーツ実技B	1・2後		1										2			
スポーツ科学論	1・2後		2										1			
小計(3科目)	-		0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5			
専 門 教 育 科 目	導 入 科 目	社会学概論	1前	○	2				2			1	1			
		まちづくりと観光	1前	○	2			1	1			1				
		小計(2科目)	-		4	0	0	1	3	0	1	2	0			
	メ ソ ッ ド 科 目	社会調査法入門	1前	○	2				1				1			
		統計分析の基礎	1後	○	2			1								
		プログラミングと数学基礎	1後	○	2					1						
		パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3前	○	2		1									
		プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3後	○	2		1									
		データサイエンス	2・3後	○	2					1						
		質的調査法	2・3後	○	2									1		
		多変量解析	3後	○	2									1		
		地理空間情報分析(未開講)	3後	○	2											
		小計(9科目)	-		2	16	0	2	1	1	0	1	2			
	演 習 科 目	導入ゼミナール	1前	○	2			13	6	1						
		観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法)	2前	○	2			1	3	2			6	1		
		観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)	2後	○	4		15	8	2	1		8				
観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案)		3前	○	4		14	8	3	1		8					
専門ゼミナール		3通	○	2		16	9	3	1							
卒業研究		4通	○	4		16	9	3	1							
基礎ゼミナールA		1後	○	2		8	8	1		4						
基礎ゼミナールB		2前	○	2		11	3	3		5						
小計(8科目)		-		18	4	0	17	9	3	1	6	1				
展 開 科 目		基 礎 Ⅰ 類 (社 会 学)	文化社会学	1後	○	2						1				
	コミュニケーション論		1後	○	2				1							
	地域と環境の社会学		2前	○	2				1							
	グローバルゼーション論		2前	○	2			1								
	基 礎 Ⅱ 類 (資 源 学)	地域資源論	1後	○	2			3				1				
		博物館概論	1後	○	2				1							
		都市建築史	2前	○	2			1								
		民俗学概論	2前	○	2			1								
	基 礎 Ⅲ 類 (地 域 学)	保全生態学概論	2前	○	2			2								
		公共政策概論	1後	○	2			1					1			
		地方自治概論	2前	○	2				1							
		地域デザイン論	2前	○	2					1						
国土・都市計画論	2後	○	2			1										

科目区分	授業科目の名称	配当 次	単位数				専任教員等の配置						兼任・兼固	
			必修	選択	自由	教養	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	国際院科目群	神道と文化	1	前	2								2	
		国際学院の学び(国際学院大学の歴史と未来)	1-2	前	2								1	
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1-2	後	2								1	
		日本文化を知る(福祉文化研究)	1-2	後	2								1	
		日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1-2	後	2								1	
		日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1-2	後	2								1	
		Japan Studies	2-3	前	2								1	
		小計(7科目)	-			2	12	0	0	0	0	0	0	6
		言語・外国語科目群	英語 I	1	前	2								5
			英語 II	1	後	2								5
英語 III	2		前	2								5		
英語 IV	2		後	2								5		
ドイツ語 I	1		前	2								2		
ドイツ語 II	1		後	2								2		
フランス語 I	1		前	2								2		
フランス語 II	1		後	2								2		
中国語 I	1		前	2								3		
中国語 II	1		後	2								3		
ロシア語 I	1	前	2								3			
ロシア語 II	1	後	2								3			
スペイン語 I	1	前	2								1			
スペイン語 II	1	後	2								1			
小計(15科目)	-			8	22	0	0	0	0	0	0	22		
STEM系科目群	コンピュータと情報 I	1-2	前・後	2								2		
	コンピュータと情報 II	1-2	後	1								1		
	情報科学入門	1-2	前	2								1		
	地球環境と人間	1-2	後	2								1		
	宇宙物理学入門	1-2	前	2								1		
	科学的思考法	1-2	後	2								1		
	小計(6科目)	-			0	12	0	0	0	0	0	0	4	
	法学(日本国憲法)	1-2	後	2								1		
	法と社会参加(企業での活動と法)	1-2	後	2								1		
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1-2	前	2								1		
行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1-2	前	2								1			
小計(4科目)	-			0	8	0	0	0	0	0	0	4		
専門教養科目群	比較文化論 I	2	後	2								1		
	日本の経済	1-2	前	2								1		
	経済理論入門	1-2	後	2								1		
	経済経営数学入門	1-2	前	2								1		
	経済学史入門	1-2	後	2								1		
	小計(5科目)	-			0	10	0	0	0	0	0	0	3	
	スポーツ実技A	1-2	前	1								2		
	スポーツ実技B	1-2	後	1								2		
	スポーツ科学論	1-2	後	2								1		
	小計(3科目)	-			0	4	0	0	0	0	0	0	5	
専門教育科目	導入科目	1	前	2				2		1	1			
	まちづくりと観光	1	前	2			1	1		1				
	小計(2科目)	-			4	0	0	1	3	0	1	2	0	
	社会調査法入門	1	前	2				1			1			
	統計分析の基礎	1	後	2			1							
	プログラミングと数学基礎	1	後	2					1					
	パブリックデザイン(地域と公共空間)	2-3	前	2			1							
	プロダクトデザイン(地域と杉)	2-3	後	2			1							
	データサイエンス	2-3	後	2					1					
	質的調査法	2-3	後	2										

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置				責任・兼担		
			必修 修習	選択	自由 科目	教 授	准 教 授	講師	助教	助手			
共通教育科目	国学院科目群	神道と文化	1	前	2							2	
		国学院の学び(国学院大学の歴史と未来)	1-2	前	2							1	
		日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1-2	後	2							1	
		日本文化を知る(儀礼文化研究)	1-2	後	2							1	
		日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1-2	後	2							1	
		日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1-2	後	2							1	
	Japan Studies	2-3	前									1	
	小計(7科目)	—			2	12	0	0	0	0	0	7	
	言語スキル科目群	日本語	アカデミック・リテラシーズⅠ	1-2	後	2							1
		英語	英語Ⅰ	1	前	2							5
			英語Ⅱ	1	後	2							5
			英語Ⅲ	2	前	2							5
			英語Ⅳ	2	後	2							5
		外国語	ドイツ語Ⅰ	1	前	2							2
			ドイツ語Ⅱ	1	後	2							2
			フランス語Ⅰ	1	前	2							2
			フランス語Ⅱ	1	後	2							2
			中国語Ⅰ	1	前	2							3
			中国語Ⅱ	1	後	2							3
			コリア語Ⅰ	1	前	2							2
			コリア語Ⅱ	1	後	2							2
		スペイン語Ⅰ	1	前	2							1	
		スペイン語Ⅱ	1	後	2							1	
小計(15科目)		—		8	22	0	0	0	0	0	0	21	
STEM系科目群		コンピュータと情報Ⅰ	1-2	前・後	2							2	
	コンピュータと情報Ⅱ	1-2	後	2							1		
	情報科学入門	1-2	前	2							1		
	地球環境と人間	1-2	後	2							1		
	宇宙物理学入門	1-2	前	2							1		
科学的思考法	1-2	後	2							1			
小計(6科目)	—		0	12	0	0	0	0	0	0	4		
シヤズンシップ科目群	法学(日本国憲法)	1-2	後	2							1		
	法と社会参加(企業での活動と法)	1-2	後	2							1		
	政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1-2	後	2							1		
	行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1-2	前	2							1		
	小計(4科目)	—		0	8	0	0	0	0	0	0	4	
専門教養科目群	比較文化論Ⅰ	2	後	2							1		
	日本の経済	1-2	前	2							1		
	経済理論入門	1-2	前	2							1		
	経済経営数学入門	1-2	前	2							1		
	経済学史入門	1-2	前	2							1		
小計(5科目)	—		0	10	0	0	0	0	0	0	3		
フサイバク科目群	スポーツ実技A	1-2	前	1							2		
	スポーツ実技B	1-2	後	1							2		
	スポーツ科学論	1-2	後	2							1		
	小計(3科目)	—		0	4	0	0	0	0	0	0	5	
専門教育科目	導入科目	社会学概論	1	前	2			2		1	1		
		まちづくりと観光	1	前									

専門教育科目	展開科目目	観光事業論	2	前	2	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						</
--------	-------	-------	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼担
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	神道と文化	1 前	2								2
	國學院の学び(國學院大學の歴史と未来)	1・2 前	2	2							1
	日本文化を知る(日本文化の普遍性と固有性)	1・2 後	2	2							1
	日本文化を知る(儀礼文化研究)	1・2 後	2	2							1
	日本文化を知る(武道の特性と国際化)	1・2 後	2	2							1
	日本文化を知る(日本文化論と日本神話)	1・2 後	2	2							1
	Japan Studies	2・3 前	2	2							1
	小計(7科目)	—	2	12	0	0	0	0	0	0	7
	日本語 基礎日本語	1・2 後	2	2							1
	英語 I	1 前	2								5
	英語 II	1 後	2								5
	英語 III	2 前	2								5
	英語 IV	2 後	2								5
	外国語 I	1 前	2	2							2
	ドイツ語 II	1 後	2	2							2
	フランス語 I	1 前	2	2							2
	フランス語 II	1 後	2	2							2
	中国語 I	1 前	2	2							3
	中国語 II	1 後	2	2							3
	コリア語 I	1 前	2	2							1
	コリア語 II	1 後	2	2							1
	スペイン語 I	1 前	2	2							1
	スペイン語 II	1 後	2	2							1
	小計(15科目)	—	8	22	0	0	0	0	0	0	20
	STEM系科目群	コンピュータと情報 I	1・2 前・後	2	2						2
		コンピュータと情報 II	1・2 後	2	2						1
		情報科学入門	1・2 前	2	2						1
	科学と論理	地球環境と人間	1・2 後	2	2						1
		宇宙物理学入門	1・2 前	2	2						1
		科学的思考法	1・2 後	2	2						1
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	4
	シテシンソップ科目群	法学(日本国憲法)	1・2 前	2	2						1
		法と社会参加(企業での活動と法)	1・2 後	2	2						1
		政治と社会参加(社会を変えるNPO活動)	1・2 後	2	2						1
		行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)	1・2 前	2	2						1
	小計(4科目)	—	0	8	0	0	0	0	0	0	4
	専門授業科目群	比較文化論 I	2 後	2	2						1
		日本の経済	1・2 前	2	2						1
		経済理論入門	1・2 前	2	2						1
		経済経営数学入門	1・2 前	2	2						1
		経済学史入門	1・2 前	2	2						1
	小計(5科目)	—	0	10	0	0	0	0	0	0	3
	ライフサイエンス科目群	スポーツ実技A	1・2 前	1	1						2
		スポーツ実技B	1・2 後	1	1						2
		スポーツ科学論	1・2 後	2	2						1
	小計(3科目)	—	0	4	0	0	0	0	0	0	5
専門教育科目	導入科目	社会学概論	1 前	2	2			2		1	1
		まちづくりと観光	1 前	2	2		1	1		1	
	小計(2科目)	—	4	0	0	1	3	0	1	2	0
	メソッド科目	社会調査法入門	1 前	2	2		1	1		1	
		統計分析の基礎	1 後	2	2		1				
		プログラミングと数学基礎	1 後	2	2			1			
		パブリックデザイン(地域と公共空間)	2・3 前	2	2		1				
		プロダクトデザイン(地域と杉)	2・3 後	2	2		1				
		データサイエンス	2・3 後	2	2			1			
		質的調査法	2・3 後	2	2						1
		多変量解析	3 前	2	2						1
		地理空間情報分析	3 前	2	2			1			
	小計(9科目)	—	2	16	0	2	1	2	0	1	2
	演習科目	導入ゼミナール	1 前	2	2		13	6	1		
		観光まちづくり演習 I (調査手法)	2 前	2	2		1	3	2	5	1
		観光まちづくり演習 II (地域分析)	2 後	4	4		15	8	3	1	5
		観光まちづくり演習 III (構想・提案)	3 前	4	4		14	8	3	1	5
		専門ゼミナール	3 通	2	2		16	9	3	1	
		卒業研究	4 通	4	4		16	9	3	1	
		基礎ゼミナールA	1 後	2	2		8	8	1	1	3
		基礎ゼミナールB	2 前	2	2		11	3	3		3
	小計(8科目)	—	18	4	0	17	9	3	1	5	1
	展開科目	文化社会学	1 後	2	2				1		
		コミュニケーション論	1 後	2	2		1				
		地域と環境の社会学	2 前	2	2		1				
		グローバル化セッション	2 前	2	2		1				
	基礎Ⅱ類(社会)	地域資源論	1 後	2	2		3			1	
		博物館概論	1 後	2	2		1				
		都市建築史	2 前	2	2		1				
		民俗学概論	2 前	2	2		1				
		保全生態学概論	2 前	2	2		2				
	基礎Ⅲ類(社会)	公共政策概論	1 後	2	2		1			1	
		地方自治概論	2 前	2	2		1				
		地域デザイン論	2 前	2	2		1				
		国土・都市計画論	2 前	2	2		1				
		都市と地域の交通	2 前	2	2		1				
	展開科目	観光学概論	1 後	2	2		1			1	
		観光マーケティング	1 後	2	2		1				
		観光政策・計画論	2 前	2	2		2				

[illegible]

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼任」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例: 記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・科目供出している文学部の開講学年に合わせて、「比較文化論Ⅰ」の開講年度を「1・2年」から「2年」に変更。
- ・教育効果を考慮した結果、「経済理論入門」の開講時期を「1年後」から「1年前」に変更。
- ・教育効果を考慮した結果、「経済学入門」の開講時期を「1年後」から「1年前」に変更。
- ・科目供出している経済学部のカリキュラムに合わせて、1年次開講「経済理論入門」の修得を履修の条件とするため、「地域と都市の経済」の開講年度を「1年後」から「2年後」に変更。
- ・「博物館実習A」について、文部科学省「博物館実習ガイドライン」に合わせて、科目単位数を「1単位」から「2単位」に変更。
- ・「博物館実習B」について、文部科学省「博物館実習ガイドライン」に合わせて、科目単位数を「2単位」から「1単位」に変更し、開講時期を「4年前」から「4年通」に変更。
- ・コンピュータの知識や数学的な思考の修得を推奨するため、共通教育科目の選択必修の条件として、「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とすることを追加。
- ・「基礎ゼミナールA」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。
- ・「基礎ゼミナールB」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。

【令和5年度】

- ・共通教育科目の言語スキル科目群の「基礎日本語」の科目名について、現行の全学的なカリキュラムに合わせて「アカデミック・リテラシーⅠ」に変更。
- ・「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、当初の想定以上に履修希望者が多かったため、新任の兼任教員を1名追加して増コマした。これにより、兼任・兼任教員数を「1」から「2」に、兼任・兼任教員数の小計を「20」から「21」に、兼任・兼任教員数の合計を「72」から「73」にそれぞれ変更。
- ・「法学（日本国憲法）」について、兼任教員が派遣研究期間（国内）にあたるため担当教員を新任の兼任教員に変更し、後任教員の本務都合により開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「観光まちづくり演習Ⅰ」「観光まちづくり演習Ⅱ」「観光まちづくり演習Ⅲ」について、授業の教育効果および助手の負担軽減のため助手を「5」から「6」に変更し、助手の人数の小計が「5」から「6」へ変更。
- ・「基礎ゼミナールA」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。
- ・「基礎ゼミナールB」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3名」配置することを追加。

【令和6年度】

- ・「日本文化を知る（儀礼文化研究）」について、担当教員変更により兼任・兼任教員数の小計を「7」から「6」に、兼任・兼任教員数の合計を「73」から「72」にそれぞれ変更。
- ・「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、当初の想定以上に履修希望者が多かったため、新任の兼任教員を1名追加して増コマした。これにより、兼任・兼任教員数を「2」から「3」に、兼任・兼任教員数の小計を「21」から「22」に、兼任・兼任教員数の合計を「72」から「73」にそれぞれ変更。
- ・「政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「後期」から「前期」に変更。
- ・「経済理論入門」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「経済学入門」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「多変量解析」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「地理空間情報分析」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「自然・環境保護行政概論」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「地域ブランディング論」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「不動産投資論」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「基礎ゼミナールA」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3」から「4」に変更。
- ・「基礎ゼミナールB」について、授業の教育効果を考慮した結果、助手を「3」から「5」に変更。

【令和7年度】

- ・「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、基幹教員以外の教員数を「3」から「2」に変更。
- ・「比較文化論Ⅰ」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「後期」から「前期」に変更。
- ・「経済理論入門」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「後期」から「前期」に変更。
- ・「経済学入門」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「後期」から「前期」に変更。
- ・「地理空間情報分析」について、担当教員（専任講師）の産休・育休取得のため未開講。
- ・「観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）」について、担当教員のうち専任講師1名が産休・育休取得のため、講師数を「3」から「2」に変更。
- ・「基礎ゼミナールA」について、担当教員のうち専任講師1名が産休・育休取得のため、講師数を「1」から「0」に変更。
- ・「国土・都市計画論」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「前期」から「後期」に変更。
- ・「観光まちづくりインターンシップ」について、教育効果を考慮した結果、配当年次を「3年次」から「2・3年次」に変更。
- ・「地域と都市の経済」について、教育効果を考慮した結果、開講時期を「後期」から「前期」に変更。

- (注)・ 2 (1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。
変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
17 科目	106 科目	9 科目	132 科目	17 科目 [0]	106 科目 [0]	9 科目 [0]	132 科目 [0]	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）
- 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	地理空間情報分析	2	3	専門	選択	担当教員の産休・育休取得のため。令和8年度は前期に開講し、学生の履修計画に支障が生じないよう適切な対応を講じている。
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「地理空間情報分析」は、担当教員が産前産後休業および育児休業を取得することとなったため、当該期間における授業の実施が困難となり、未開講とする判断に至った。本学としては、学生の学修機会の確保を最優先に考え、今後の履修計画に支障が生じないよう、令和8年度は前期科目として科目開講を再開し、学生への案内等について必要な対応を講じている。学生には、履修ガイダンス等で全体に周知したうえで、履修相談についても都度個別に適切な対応を行った。

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{1}{132} = \boxed{0.75} \%$$

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【借用面積】4763.07 ㎡【借用期間】令和2 年3月1日～令和31年3 月31日					
	校 舎 敷 地	112,498㎡	0㎡	0㎡	112,498㎡						
	そ の 他	44,947㎡	0㎡	0㎡	44,947㎡						
	合 計	157,445㎡	0㎡	0㎡	157,445㎡						
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		102,637㎡ 116,772㎡ (102,637㎡) -(116,772㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	102,637㎡ 116,772㎡ (102,637㎡) -(116,772㎡)						
(3)教室・教員研究室		教 室	1 2 9 室	教員研究室	3 0 室						
(4)	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		機械・器具	標本	「図書（・電子図 書）」「学術雑誌（・ 電子ジャーナル）」に ついては、学部単位で の特定不能なため、大 学全体の数				
		〔うち外国書〕	電子図書	〔うち外国書〕				電子ジャーナル			
		冊	冊	種	種	点		点			
	観光まちづくり 学部	1,646,353 [332,917] 1,646,818 -(332,695) 1,643,842 -[332,231] 1,637,460 -[332,270] 1,628,973 -[331,691] (1,636,855 [332,919]) (1,628,815 -[332,752]) (1,614,873 -[332,397]) (1,601,127 -[332,404]) (1,603,863 -[332,347])	7,839 [1,364] (7,839 [1,364])	10,693 [2,117] 10,721 -[2,120] 10,726 -[2,126] 10,822 -[2,137] 10,828 -[2,148]	65,611 [63,643] 75,180 -[72,925] 58,319 -[56,256] 77,052 -[74,607] 35,087 -[33,883] (65,611 [63,643]) (44,364 -[42,719]) (51,063 -[40,397]) (33,868 -[32,700])	30 20		0			
	計	1,646,353 [332,917] 1,646,818 -(332,695) 1,643,842 -[332,231] 1,637,460 -[332,270] 1,628,973 -[331,691] (1,636,855 [332,919]) (1,628,815 -[332,752]) (1,614,873 -[332,397]) (1,601,127 -[332,404]) (1,603,863 -[332,347])	7,839 [1,364] (7,839 [1,364])	10,693 [2,117] 10,721 -[2,120] 10,726 -[2,126] 10,822 -[2,137] 10,828 -[2,148]	65,611 [63,643] 75,180 -[72,925] 58,319 -[56,256] 77,052 -[74,607] 35,087 -[33,883] (65,611 [63,643]) (44,364 -[42,719]) (51,063 -[40,397]) (33,868 -[32,700])	30 20		0	新規購入と計画的除籍 を実施したため（6）		
(5) スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂	厚生補導施設	大学全体					
		6,211㎡		1,623㎡	12,512㎡						
(6)	経費の見 積り及び 維持方法 の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	開設前年度及び開設年 度は実績に基づいた数 値である。 完成年度は令和7年度 （完成年度）予算額の 数値である。 図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費（運搬用コスト 含む）を含む。		
		教員1人当り研究費等	255千円 350千円	350千円	図書購入費	15,041千円 15,000千円	14,975千円 22,500千円	30,000千円			
		共 同 研 究 費 等	0千円 650千円	800千円 650千円	設備購入費	297,408千円 346,379千円 150,000千円	7,752千円 5,000千円	8,000千円 5,000千円			
		学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		— 千円 — 千円	
			1,300千円	1,060千円	1,060千円	1,060千円	— 千円	— 千円			
		学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、補助金収入、寄付金収入、資金運用収入を充当							

- (注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）又は（その1の3）に準じて作成してください。
（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び
「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。）
・「（4）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
・校舎等建物の計画の変更（校舎の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
・高等専門学校については「（3）教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。
・国立大学については「（6）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称		國學院大學									収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	3
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
文学部	4	685	-	2,740	-	1.13	1.09	-	昭和23	-	※令和4年度より入学定員減（255人⇒250人）。令和3年度届出済。			
日本文学科	4	250	-	1000	学士(文学)	1.13	1.09	-	平成8	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
中国文学科	4	60	-	240	学士(文学)	1.00	0.98	-	平成8	同上				
外国語文化学科	4	120	-	480	学士(文学)	1.14	1.09	-	平成8	同上				
史学科	4	190	-	760	学士(文学)	1.13	1.10	-	昭和23	同上				
哲学科	4	65	-	260	学士(文学)	1.26	1.19	-	昭和23	同上				
法学部	4	500	-	2,000	-	1.09	1.06	-	昭和38	-	※令和2年度より入学定員増（210人⇒255人）。令和元年度届出済。			
法律学科	4	500	-	2,000	学士(法学)	1.09	1.06	-	昭和38	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
経済学部	4	510	-	2,040	-	1.15	1.10	-	昭和41	-				
経済学科	4	255	-	1,020	学士(経済学)	1.13	1.09	-	昭和41	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
経済ネットワーキング学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	-	-	平成8	同上				
経営学科	4	255	-	1,020	学士(経営学)	1.16	1.11	-	平成17	同上				
神道文化学部	4	180	-	720	-	1.13	1.07	-	平成14	-	※令和2年度より学生募集停止（150人⇒0人）。令和元年度届出済。			
神道文化学科(昼間主)	4	120	-	480	学士(文学)	1.21	1.14	-	平成14	東京都渋谷区東四丁目10番28号				
神道文化学科(夜間主)	4	60	-	240	学士(文学)	0.97	0.92	-	平成14	同上				
人間開発学部	4	330	-	1,320	-	1.12	1.10	-	平成21	-				
初等教育学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.13	1.12	-	平成21	神奈川県横浜市長青区新石川三丁目22番地1				
健康体育学科	4	130	-	520	学士(体育学)	1.14	1.11	-	平成21	同上				
子ども支援学科	4	100	-	400	学士(教育学)	1.06	1.05	-	平成25	同上	※令和2年度より入学定員増（150人⇒255人）。令和元年度届出済。			
観光まちづくり学部	4	300	-	1,200	-	1.06	-	-	令和4	-				
観光まちづくり学科	4	300	-	1,200	学士(観光まちづくり)	1.06	-	-	令和4	神奈川県横浜市長青区新石川三丁目22番地1				
大学全体	4	2,505	-	10,020	-	-	-	-	-	-				

-
- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部・学科等、「入学定員を定めている組織」と共に全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.3.3収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

(1) 一① 担当教員表

-19-

-20-

-21-

【認可時又は届出時】			【令和4年度】			【令和5年度】			【令和6年度】			【令和7年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	教員区分	職名	氏名 (年 齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			
専	准教授	藤岡 麻理子 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	准教授	藤岡 麻理子 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	准教授	藤岡 麻理子 (42) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	准教授	藤岡 麻理子 (43) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	基(主専)	准教授	藤岡 麻理子 (44) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 世界遺産論			導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 世界遺産論			導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 世界遺産論			導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB 世界遺産論			
専	准教授	松本 貴文 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	准教授	松本 貴文 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	准教授	松本 貴文 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	准教授	松本 貴文 (42) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	基(主専)	准教授	松本 貴文 (43) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		社会学概論※ 社会調査法入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学			社会学概論※ 社会調査法入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学			社会学概論※ 社会調査法入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学			社会学概論※ 社会調査法入門 導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 地域と環境の社会学			
専	講師	児玉(大澤) 千絵 (32) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	児玉(大澤) 千絵 (32) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	児玉(大澤) 千絵 (33) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	児玉(大澤) 千絵 (34) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	基(主専)	講師	児玉(大澤) 千絵 (35) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB			地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB			地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB			地理空間情報分析 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 基礎ゼミナールB			
専	講師	仲野 潤一 (38) ＜令和4年4月＞ 修士(情報理工学)※	専	講師	仲野 潤一 (38) ＜令和4年4月＞ 修士(情報理工学)※	専	講師	仲野 潤一 (39) ＜令和4年4月＞ 修士(情報理工学)※	専	講師	仲野 潤一 (40) ＜令和4年4月＞ 修士(情報理工学)※	基(主専)	講師	仲野 潤一 (41) ＜令和4年4月＞ 修士(情報理工学)※
		プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB			プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB			プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB			プログラミングと数学基礎 データサイエンス 観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB			
専	講師	楊 恵亘 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	楊 恵亘 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	楊 恵亘 (42) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	楊 恵亘 (43) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	基(主専)	講師	楊 恵亘 (44) ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※			導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※			導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※			導入ゼミナール 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールB 都市保全論 アートと地域振興※			
専	助教	潘 夢斐 (34) ＜令和4年4月＞ 修士(学際情報学)※	専	助教	潘 夢斐 (34) ＜令和4年4月＞ 博士(学際情報学)	専	助教	潘 夢斐 (35) ＜令和4年4月＞ 博士(学際情報学)	専	助教	潘 夢斐 (36) ＜令和4年4月＞ 博士(学際情報学)	基(主専)	助教	潘 夢斐 (37) ＜令和4年4月＞ 博士(学際情報学)
		社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学			社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学			社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学			社会学概論※ 観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析) 観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) 専門ゼミナール 卒業研究 基礎ゼミナールA 文化社会学			
兼任	教授	石井 研士 (67) ＜令和4年4月＞ 博士(宗教学)	兼任	教授	石井 研士 (67) ＜令和4年4月＞ 博士(宗教学)	兼任	教授	石井 研士 (68) ＜令和4年4月＞ 博士(宗教学)	兼任	教授				
		日本文化を知る(儒礼文化研究)			日本文化を知る(儒礼文化研究)									
兼任	教授	岩瀬 由佳 (57) ＜令和4年4月＞ 博士(言語文化学)	兼任	教授	岩瀬 由佳 (58) ＜令和5年4月＞ 博士(言語文化学)	兼任	教授	岩瀬 由佳 (59) ＜令和6年4月＞ 博士(言語文化学)	兼任	教授	岩瀬 由佳 (60) ＜令和7年4月＞ 博士(言語文化学)			
		比較文化論Ⅰ			比較文化論Ⅰ			比較文化論Ⅰ						
兼任	教授	植原 吉朗 (62) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	兼任	教授	植原 吉朗 (63) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	兼任	教授	植原 吉朗 (64) ＜令和4年4月＞ 博士(医学)	兼任	教授				
		日本文化を知る(武徳の特性と国際化) スポーツ実技A			日本文化を知る(武徳の特性と国際化) スポーツ実技A			日本文化を知る(武徳の特性と国際化) スポーツ実技A						
兼任	教授	尾近 裕幸 (58) ＜令和4年4月＞ 修士(経済学)	兼任	教授	尾近 裕幸 (59) ＜令和4年4月＞ 修士(経済学)	兼任	教授	尾近 裕幸 (60) ＜令和4年4月＞ 修士(経済学)	兼任	教授		その他	教授	尾近 裕幸 (61) ＜令和4年4月＞ 修士(経済学)
		経済理論入門 経済学史入門			経済理論入門 経済学史入門			経済理論入門 経済学史入門			経済理論入門 経済学史入門			

【認可時又は届出時】			【令和４年度】			【令和５年度】			【令和６年度】			【令和７年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	教員区分	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	金杉 武司 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	教授	金杉 武司 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	教授	金杉 武司 (50) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	教授	金杉 武司 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	その他	教授	金杉 武司 (52) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		哲学・倫理学			哲学・倫理学			哲学・倫理学			哲学・倫理学			哲学・倫理学
兼任	教授	近藤 良彦 (59) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	近藤 良彦 (59) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	近藤 良彦 (60) ＜令和4年4月＞ 理学博士	兼任	教授	近藤 良彦 (61) ＜令和4年4月＞ 理学博士	その他	教授	近藤 良彦 (62) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門			コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門			コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門			コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門			コンピュータと情報Ⅰ コンピュータと情報Ⅱ 宇宙物理学入門
兼任	教授	坂本 正徳 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	教授	坂本 正徳 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	教授	坂本 正徳 (58) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	教授	坂本 正徳 (59) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	その他	教授	坂本 正徳 (60) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門			コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門			コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門			コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門			コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門
兼任	教授	中馬 祥子 (56) ＜令和6年4月＞ 社会学修士	兼任	教授	中馬 祥子 (54) ＜令和6年4月＞ 社会学修士	兼任	教授	中馬 祥子 (55) ＜令和6年4月＞ 社会学修士	兼任	教授	中馬 祥子 (56) ＜令和6年4月＞ 社会学修士	その他	教授	中馬 祥子 (57) ＜令和6年4月＞ 社会学修士
		NPOと市民社会			NPOと市民社会			NPOと市民社会			NPOと市民社会			NPOと市民社会
兼任	教授	中泉 真樹 (64) ＜令和4年4月＞ 経済学士	兼任	教授	中泉 真樹 (64) ＜令和4年4月＞ 経済学士	兼任	教授	中泉 真樹 (65) ＜令和4年4月＞ 経済学士	兼任	教授	中泉 真樹 (66) ＜令和4年4月＞ 経済学士	その他	教授	中泉 真樹 (67) ＜令和4年4月＞ 経済学士
		日本の経済 経済経営数学入門			日本の経済 経済経営数学入門			日本の経済 経済経営数学入門			日本の経済 経済経営数学入門			日本の経済 経済経営数学入門
兼任	教授	中曽根（市川） 玲子 (65) ＜令和4年4月＞ 法学修士												
		法と社会参加（企業での活動と法）												
兼任	教授	長又 高夫 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	兼任	教授	長又 高夫 (57) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	兼任	教授	長又 高夫 (58) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	兼任	教授	長又 高夫 (59) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	その他	教授	長又 高夫 (60) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）
		日本文化を知る（日本文化の普遍性と固有性）			日本文化を知る（日本文化の普遍性と固有性）			日本文化を知る（日本文化の普遍性と固有性）			日本文化を知る（日本文化の普遍性と固有性）			日本文化を知る（日本文化の普遍性と固有性）
兼任	教授	林 貴一郎 (48) ＜令和4年4月＞ 博士（体育科学）	兼任	教授	林 貴一郎 (48) ＜令和4年4月＞ 博士（体育科学）	兼任	教授	林 貴一郎 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（体育科学）	兼任	教授	林 貴一郎 (50) ＜令和4年4月＞ 博士（体育科学）	その他	教授	林 貴一郎 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（体育科学）
		スポーツ科学論			スポーツ科学論			スポーツ科学論			スポーツ科学論			スポーツ科学論
兼任	教授	福岡 英明 (62) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	兼任	教授	福岡 英明 (62) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）									
		法学（日本国憲法）			法学（日本国憲法）									
兼任	准教授	伊藤 英之 (39) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	伊藤 英之 (39) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	伊藤 英之 (40) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）	兼任	准教授	伊藤 英之 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）	その他	准教授	伊藤 英之 (42) ＜令和4年4月＞ 修士（教育学）
		スポーツ実技B			スポーツ実技B			スポーツ実技B			スポーツ実技B			スポーツ実技B
兼任	准教授	稲垣 浩 (45) ＜令和5年4月＞ 博士（政治学）	兼任	教授	稲垣 浩 (44) ＜令和5年4月＞ 博士（政治学）	兼任	教授	稲垣 浩 (45) ＜令和5年4月＞ 博士（政治学）	兼任	教授	稲垣 浩 (46) ＜令和5年4月＞ 博士（政治学）	その他	教授	稲垣 浩 (47) ＜令和5年4月＞ 博士（政治学）
		行財政概論			行財政概論			行財政概論			行財政概論			行財政概論
兼任	准教授	小濱 歩 (42) ＜令和4年4月＞ 博士（神道学）	兼任	准教授	小濱 歩 (42) ＜令和4年4月＞ 博士（神道学）	兼任	准教授	小濱 歩 (43) ＜令和4年4月＞ 博士（神道学）	兼任	准教授	小濱 歩 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（神道学）	その他	准教授	小濱 歩 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（神道学）
		國學院の学び（國學院大学の歴史と未来） 日本文化を知る（日本文化論と日本神話）			國學院の学び（國學院大学の歴史と未来） 日本文化を知る（日本文化論と日本神話）			國學院の学び（國學院大学の歴史と未来） 日本文化を知る（日本文化論と日本神話）			國學院の学び（國學院大学の歴史と未来） 日本文化を知る（日本文化論と日本神話）			國學院の学び（國學院大学の歴史と未来） 日本文化を知る（日本文化論と日本神話）
兼任	准教授	矢野 節太郎 (52) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）	兼任	准教授	矢野 節太郎 (52) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）	兼任	教授	矢野 節太郎 (53) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）						
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ			ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ			ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ						
兼任	准教授	千野 謙太郎 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	准教授	千野 謙太郎 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	准教授	千野 謙太郎 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	兼任	准教授	千野 謙太郎 (46) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）	その他	准教授	千野 謙太郎 (47) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		スポーツ実技B			スポーツ実技B			スポーツ実技B			スポーツ実技B			スポーツ実技B
兼任	准教授	備前 嘉文 (43) ＜令和4年4月＞ 博士（スポーツ科学）	兼任	准教授	備前 嘉文 (43) ＜令和4年4月＞ 博士（スポーツ科学）	兼任	准教授	備前 嘉文 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（スポーツ科学）	兼任	教授	備前 嘉文 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（スポーツ科学）	その他	教授	備前 嘉文 (46) ＜令和4年4月＞ 博士（スポーツ科学）
		スポーツ実技A			スポーツ実技A			スポーツ実技A			スポーツ実技A			スポーツ実技A
兼任	講師	羅 芝賢 (37) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	兼任	准教授	羅 芝賢 (37) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	兼任	准教授	羅 芝賢 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）	兼任	准教授	羅 芝賢 (39) ＜令和4年4月＞ 博士（法学）			
		行政と市民生活（デジタル時代の行政と社会）			行政と市民生活（デジタル時代の行政と社会）			行政と市民生活（デジタル時代の行政と社会）			行政と市民生活（デジタル時代の行政と社会）			

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教	助教	大道（山中）晴香 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（宗教学）
		神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任 助教	助教	柏木 亨介 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任 講師	講師	安倍 幸 (61) ＜令和6年4月＞ 博士（政治学）
		文化人類学
兼任 講師	講師	荒木 臣紀 (54) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術学）
		博物館資料保存論
兼任 講師	講師	石原 久子 (57) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	市村 真実 (40) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※
		博物館教育論
兼任 講師	講師	大森 尚子 (57) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	岡田 誠 (48) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		基礎日本語
兼任 講師	講師	岡部 友彦 (45) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※
		ソーシャル・イノベーション
兼任 講師	講師	奥田 麻衣 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		地球環境と人間

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教	助教	大道（山中）晴香 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（宗教学）
		神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任 助教	助教	柏木 亨介 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任 講師	講師	安倍 幸 (59) ＜令和6年4月＞ 博士（政治学）
		文化人類学
兼任 講師	講師	荒木 臣紀 (53) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術学）
		博物館資料保存論
兼任 講師	講師	石原 久子 (56) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	市村 真実 (39) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※
		博物館教育論
兼任 講師	講師	大森 尚子 (56) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	岡田 誠 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		基礎日本語
兼任 講師	講師	岡部 友彦 (44) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※
		ソーシャル・イノベーション
兼任 講師	講師	奥田 麻衣 (44) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		地球環境と人間

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教	助教	大道（山中）晴香 (37) ＜令和4年4月＞ 博士（宗教学）
		神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ
兼任 助教	助教	柏木 亨介 (46) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任 講師	講師	安倍 幸 (60) ＜令和6年4月＞ 博士（政治学）
		文化人類学
兼任 講師	講師	荒木 臣紀 (54) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術学）
		博物館資料保存論
兼任 講師	講師	石原 久子 (57) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	市村 真実 (40) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※
		博物館教育論
兼任 講師	講師	岩松 真紀 (59) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		生涯学習概論
兼任 講師	講師	大森 尚子 (57) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	岡田 誠 (50) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		アカデミック・リテラシーⅠ
兼任 講師	講師	岡部 友彦 (45) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※
		ソーシャル・イノベーション
兼任 講師	講師	岡本 さだこ (66) ＜令和5年4月＞ 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師	講師	奥田 麻衣 (45) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		地球環境と人間

【令和6年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 准教授	准教授	大道（山中）晴香 (38) ＜令和4年4月＞ 博士（宗教学）
		神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ 日本文化を知る（ 儒教文化研究 ）
兼任 准教授	准教授	柏木 亨介 (47) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		神道と文化 神道と環境Ⅰ
兼任 講師	講師	東 徹 (82) ＜令和6年4月＞ 修士（商学）
		地域ブランディング論
兼任 講師	講師	安倍 幸 (61) ＜令和6年4月＞ 博士（政治学）
		文化人類学
兼任 講師	講師	荒木 臣紀 (55) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術学）
		博物館資料保存論
兼任 講師	講師	梅刈 由紀 (52) ＜令和5年4月＞ 博士（哲学）
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任 講師	講師	石原 久子 (58) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	市村 真実 (41) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※
		博物館教育論
兼任 講師	講師	岩松 真紀 (60) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		生涯学習概論
兼任 講師	講師	大森 尚子 (58) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師	講師	岡田 誠 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		アカデミック・リテラシーⅠ
兼任 講師	講師	岡部 友彦 (46) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※
		ソーシャル・イノベーション
兼任 講師	講師	岡本 さだこ (67) ＜令和5年4月＞ 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任 講師	講師	奥田 麻衣 (46) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		地球環境と人間

【令和7年度】

教員区分	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
その他 准教授	准教授	大道（山中）晴香 (39) ＜令和4年4月＞ 博士（宗教学）
		神道と文化 神社ネットワーク論Ⅰ 日本文化を知る（ 儒教文化研究 ）
その他 准教授	准教授	柏木 亨介 (48) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		神道と文化 神道と環境Ⅰ
その他 准教授	准教授	田村 昌大 (44) ＜令和7年4月＞ 博士（スポーツ健康科学）
		日本文化を知る（ 武道の特性と国際化 ） スポーツ実技A
その他 講師	講師	東 徹 (83) ＜令和6年4月＞ 修士（商学）
		地域ブランディング論
その他 講師	講師	安倍 幸 (62) ＜令和6年4月＞ 博士（政治学）
		文化人類学
その他 講師	講師	阿部 智也 (39) ＜令和7年4月＞ 法曹博士
		法と社会参加（企業での活動と法）
その他 講師	講師	荒木 臣紀 (56) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術学）
		博物館資料保存論
その他 講師	講師	池田 和子 (51) ＜令和7年4月＞ 博士（観光科学）
		地理学概論
その他 講師	講師	石原 久子 (59) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ
その他 講師	講師	市村 真実 (42) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※
		博物館教育論
その他 講師	講師	岩松 真紀 (61) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		生涯学習概論
その他 講師	講師	大森 尚子 (59) ＜令和5年4月＞ 文学修士※
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
その他 講師	講師	岡田 誠 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（文学）
		アカデミック・リテラシーⅠ
その他 講師	講師	岡部 友彦 (47) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）※
		ソーシャル・イノベーション
その他 講師	講師	岡本 さだこ (68) ＜令和5年4月＞ 文学修士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
その他 講師	講師	奥田 麻衣 (47) ＜令和4年4月＞ 博士（学術）
		地球環境と人間

【認可時又は届出時】			【令和4年度】			【令和5年度】			【令和6年度】			【令和7年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	教員区分	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	小野 雅子 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	小野 雅子 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士				兼任	講師				
		英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ									
兼任	講師	片山 美由紀 (58) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	兼任	講師	片山 美由紀 (57) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	兼任	講師	片山 美由紀 (58) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	兼任	講師	片山 美由紀 (59) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※	その他	講師	片山 美由紀 (60) ＜令和5年4月＞ 人文学修士※
		観光心理学			観光心理学			観光心理学			観光心理学			観光心理学
兼任	講師	角屋 明彦 (65) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	兼任	講師	角屋 明彦 (65) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	兼任	講師	角屋 明彦 (66) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	兼任	講師	角屋 明彦 (67) ＜令和4年4月＞ 学術修士※	その他	講師	角屋 明彦 (68) ＜令和4年4月＞ 学術修士※
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (58) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (57) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (58) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	兼任	講師	上綱（菅野）久美子 (59) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士	その他	講師	上綱（菅野）久美子 (60) ＜令和5年4月＞ 芸術学修士
		観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）			観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）			観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）			観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）			観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）
兼任	講師	楳川 純子 (58) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	楳川 純子 (58) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	楳川 純子 (59) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	楳川 純子 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士	その他	講師	楳川 純子 (61) ＜令和4年4月＞ 文学修士
		政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）			政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）			政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）			政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）			政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）
兼任	講師	木下 令子 (66) ＜令和4年4月＞ 文学士	兼任	講師	木下 令子 (66) ＜令和4年4月＞ 文学士	兼任	講師	木下 令子 (67) ＜令和4年4月＞ 文学士	兼任	講師	木下 令子 ＜令和4年4月＞ 文学士	その他	講師	木下 令子 (69) ＜令和5年4月＞ 文学士
		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ			スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ			スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ			スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ			スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ
												その他 講師		栗原 祐司 (58) ＜令和7年4月＞ 法学士、修士（教養）
														博物館経営論
兼任	講師	後藤 知美 (39) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	兼任	講師	後藤 知美 (37) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	兼任	講師	後藤 知美 (38) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	兼任	講師	後藤 知美 (39) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）	その他	講師	後藤 知美 (40) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		博物館展示論			博物館展示論			博物館展示論			博物館展示論			博物館展示論
兼任	講師	後藤 靖子 (65) ＜令和5年4月＞ 法学士	兼任	講師	後藤 靖子 (64) ＜令和5年4月＞ 法学士	兼任	講師	後藤 靖子 (65) ＜令和5年4月＞ 法学士	兼任	講師	後藤 靖子 (66) ＜令和5年4月＞ 法学士	その他	講師	後藤 靖子 (67) ＜令和5年4月＞ 法学士
		運輸・観光実践論			運輸・観光実践論			運輸・観光実践論			運輸・観光実践論			運輸・観光実践論
						兼任 講師		小林 宇智 ＜令和5年4月＞ 修士（法学）						
								法学（日本国憲法）						
兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (35) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (34) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (35) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	兼任	講師	小堀（佐々木）貴子 (36) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	その他	講師	小堀（佐々木）貴子 (37) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		レクリエーション計画論			レクリエーション計画論			レクリエーション計画論			レクリエーション計画論			レクリエーション計画論
兼任	講師	齋藤 弘崇 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	兼任	講師	齋藤 弘崇 (41) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	兼任	講師	齋藤 弘崇 (42) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	兼任	講師	齋藤 弘崇 (43) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※	その他	講師	齋藤 弘崇 (44) ＜令和4年4月＞ 修士（文学）※
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千明 (64) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	佐藤 千明 (64) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	佐藤 千明 (65) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	佐藤 千明 (66) ＜令和4年4月＞ 文学修士	その他	講師	佐藤 千明 (67) ＜令和4年4月＞ 文学修士
		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ			フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ
兼任	講師	佐野 敦子 (51) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	兼任	講師	佐野 敦子 (50) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	兼任	講師	佐野 敦子 (51) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	兼任	講師	佐野 敦子 (52) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）	その他	講師	佐野 敦子 (53) ＜令和5年4月＞ 博士（社会デザイン学）
		ジェンダーの社会学			ジェンダーの社会学			ジェンダーの社会学			ジェンダーの社会学			ジェンダーの社会学
									兼任 講師			その他 講師		奥田 竜太郎 (28) ＜令和6年4月＞ 博士（法学）
														法学（日本国憲法）
												その他 講師		島田 裕平 ＜令和7年4月＞ 公衆衛生学修士（専門職）
														行政と市民生活（デジタル時代の行政と社会）
兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (48) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (49) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	兼任	講師	首藤（吉中）理彩子 (50) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）	その他	講師	首藤（吉中）理彩子 (51) ＜令和4年4月＞ 修士（英米言語学）
		英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	John Pak (65) ＜令和4年4月＞ Master of Arts (米国)	兼任	講師	John Pak (65) ＜令和4年4月＞ Master of Arts (米国)	兼任	講師	John Pak (66) ＜令和4年4月＞ Master of Arts (米国)	兼任	講師	John Pak (67) ＜令和4年4月＞ Master of Arts (米国)	その他	講師	John Pak (68) ＜令和4年4月＞ Master of Arts (米国)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ			英語Ⅰ 英語Ⅱ

【認可時又は届出時】			【令和4年度】			【令和5年度】			【令和6年度】			【令和7年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	教員区分	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	杉本 興運 (35) ＜令和4年4月＞ 博士（観光学）	兼任	講師	杉本 興運 (35) ＜令和4年4月＞ 博士（観光学）	兼任	講師	杉本 興運 (36) ＜令和4年4月＞ 博士（観光学）	兼任	講師	杉本 興運 (37) ＜令和4年4月＞ 博士（観光学）			
		地理学概論			地理学概論			地理学概論						
兼任	講師	園司 直也 (47) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	兼任	講師	園司 直也 (46) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	兼任	講師	園司 直也 (47) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	兼任	講師	園司 直也 (48) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）	その他	講師	園司 直也 (49) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		農山漁村論			農山漁村論			農山漁村論			農山漁村論			
兼任	講師	鈴木 卓治 (58) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	鈴木 卓治 (56) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	鈴木 卓治 (57) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）	兼任	講師	鈴木 卓治 (58) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）	その他	講師	鈴木 卓治 (59) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		博物館情報・メディア論			博物館情報・メディア論			博物館情報・メディア論			博物館情報・メディア論			
兼任	講師	高久 健二 (54) ＜令和4年4月＞ 文学博士（韓国）	兼任	講師	高久 健二 (54) ＜令和4年4月＞ 文学博士（韓国）	兼任	講師	高久 健二 (55) ＜令和4年4月＞ 文学博士（韓国）	兼任	講師	高久 健二 (56) ＜令和4年4月＞ 文学博士（韓国）			
		コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ			コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ			コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ						
兼任	講師	高橋 佳江 (62) ＜令和5年4月＞ 文学修士	兼任	講師	高橋 佳江 (61) ＜令和5年4月＞ 文学修士	兼任	講師	高橋 佳江 (62) ＜令和5年4月＞ 文学修士	兼任	講師	高橋 佳江 (63) ＜令和5年4月＞ 文学修士	その他	講師	高橋 佳江 (64) ＜令和5年4月＞ 文学修士
		英語Ⅲ 英語Ⅳ			英語Ⅲ 英語Ⅳ			英語Ⅲ 英語Ⅳ			英語Ⅲ 英語Ⅳ			
兼任	講師	高松 正人 (65) ＜令和5年4月＞ 教育学士	兼任	講師	高松 正人 (63) ＜令和5年4月＞ 教育学士	兼任	講師	高松 正人 (64) ＜令和5年4月＞ 教育学士	兼任	講師	高松 正人 (65) ＜令和5年4月＞ 教育学士	その他	講師	高松 正人 (66) ＜令和5年4月＞ 教育学士
		観光危機管理論			観光危機管理論			観光危機管理論			観光危機管理論			
兼任	講師	田中 ゆり (55) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※ Master of Arts（ドイツ）	兼任	講師	田中 ゆり (54) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※ Master of Arts（ドイツ）	兼任	講師	田中 ゆり (55) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※ Master of Arts（ドイツ）	兼任	講師	田中 ゆり (56) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※ Master of Arts（ドイツ）	その他	講師	田中 ゆり (57) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）※ Master of Arts（ドイツ）
		英語Ⅲ 英語Ⅳ			英語Ⅲ 英語Ⅳ			英語Ⅲ 英語Ⅳ			英語Ⅲ 英語Ⅳ			
兼任	講師	丹治 朋子 (53) ＜令和5年4月＞ 修士（社会学）※	兼任	講師	丹治 朋子 (52) ＜令和5年4月＞ 修士（社会学）※	兼任	講師	丹治 朋子 (53) ＜令和5年4月＞ 修士（社会学）※	兼任	講師	丹治 朋子 (54) ＜令和5年4月＞ 修士（社会学）※	その他	講師	丹治 朋子 (55) ＜令和5年4月＞ 修士（社会学）※
		ホスピタリティ・マネジメント論			ホスピタリティ・マネジメント論			ホスピタリティ・マネジメント論			ホスピタリティ・マネジメント論			
兼任	講師	丹野（江部）春香 (36) ＜令和5年4月＞ 修士（教育学）	兼任	講師	丹野（江部）春香 (35) ＜令和5年4月＞ 修士（教育学）									
		生涯学習概論			生涯学習概論									
兼任	講師	坪原 絆二 (59) ＜令和6年4月＞ 博士（工学） Ph. D.（オランダ）	兼任	講師	坪原 絆二 (57) ＜令和6年4月＞ 博士（工学） Ph. D.（オランダ）	兼任	講師	坪原 絆二 (58) ＜令和6年4月＞ 博士（工学） Ph. D.（オランダ）	兼任	講師	坪原 絆二 (59) ＜令和6年4月＞ 博士（工学） Ph. D.（オランダ）	その他	講師	坪原 絆二 (60) ＜令和6年4月＞ 博士（工学） Ph. D.（オランダ）
		コミュニティ論			コミュニティ論			コミュニティ論			コミュニティ論			
兼任	講師	津山 拓也 (59) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	津山 拓也 (59) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	津山 拓也 (60) ＜令和4年4月＞ 文学修士	兼任	講師	津山 拓也 (61) ＜令和4年4月＞ 文学修士	その他	講師	津山 拓也 (62) ＜令和4年4月＞ 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ			ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ			ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ			ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ			
兼任	講師	戸井 久 (53) ＜令和4年4月＞ 博士（中国学）	兼任	講師	戸井 久 (53) ＜令和4年4月＞ 博士（中国学）	兼任	講師	戸井 久 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（中国学）	兼任	講師	戸井 久 (55) ＜令和4年4月＞ 博士（中国学）	その他	講師	戸井 久 (56) ＜令和4年4月＞ 博士（中国学）
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			中国語Ⅰ 中国語Ⅱ			
兼任	講師	土手 昭伸 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	土手 昭伸 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	土手 昭伸 (50) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	兼任	講師	土手 昭伸 (51) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）	その他	講師	土手 昭伸 (52) ＜令和4年4月＞ 博士（理学）
		科学的思考法			科学的思考法			科学的思考法			科学的思考法			

【認可時又は届出時】			【令和４年度】			【令和５年度】			【令和６年度】			【令和７年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名	教員区分	職名	氏名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等 担当授業科目名
												その他	講師	外山 昌樹 (40) ＜令和7年4月＞ 博士（経営学） 多重量販析
兼任	講師	中村 大 (56) ＜令和6年4月＞ 修士（歴史学） 多変量解析	兼任	講師	中村 大 (54) ＜令和6年4月＞ 修士（歴史学） 多変量解析	兼任	講師	中村 大 (55) ＜令和6年4月＞ 修士（歴史学） 多変量解析	兼任	講師	中村 大 (56) ＜令和6年4月＞ 修士（歴史学） 多変量解析			
兼任	講師	橋本 俊哉 (60) ＜令和5年4月＞ 博士（工学） 観光行動論	兼任	講師	橋本 俊哉 (59) ＜令和5年4月＞ 博士（工学） 観光行動論	兼任	講師	橋本 俊哉 (60) ＜令和5年4月＞ 博士（工学） 観光行動論	兼任	講師	橋本 俊哉 (61) ＜令和5年4月＞ 博士（工学） 観光行動論	その他	講師	橋本 俊哉 (62) ＜令和5年4月＞ 博士（工学） 観光行動論
			兼任	講師	花田 弘介 (37) ＜令和4年4月＞ 法務博士（専門職） 法と社会参加（企業での活動と法）	兼任	講師	花田 弘介 (38) ＜令和4年4月＞ 法務博士（専門職） 法と社会参加（企業での活動と法）	兼任	講師	花田 弘介 (39) ＜令和4年4月＞ 法務博士（専門職） 法と社会参加（企業での活動と法）			
兼任	講師	原 功 (47) ＜令和5年4月＞ 修士（言語学）※ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	兼任	講師	原 功 (46) ＜令和5年4月＞ 修士（言語学）※ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	兼任	講師	原 功 (47) ＜令和5年4月＞ 修士（言語学）※ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	兼任	講師	原 功 (48) ＜令和5年4月＞ 修士（言語学）※ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	その他	講師	原 功 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（言語学）※ 英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	半田 昌之 (67) ＜令和6年4月＞ 法学士 博物館経営論	兼任	講師	半田 昌之 (67) ＜令和6年4月＞ 法学士 博物館経営論	兼任	講師	半田 昌之 (69) ＜令和6年4月＞ 法学士 博物館経営論	兼任	講師	半田 昌之 (69) ＜令和6年4月＞ 法学士 博物館経営論			
兼任	講師	深谷 信介 (59) ＜令和5年4月＞ 修士（工学） 地域ブランディング論	兼任	講師	深谷 信介 (58) ＜令和5年4月＞ 修士（工学） 地域ブランディング論	兼任	講師	深谷 信介 (59) ＜令和5年4月＞ 修士（工学） 地域ブランディング論						
兼任	講師	福井 一喜 (34) ＜令和4年4月＞ 博士（理学） 地域と都市の経済	兼任	講師	福井 一喜 (34) ＜令和5年4月＞ 博士（理学） 地域と都市の経済	兼任	講師	福井 一喜 (35) ＜令和5年4月＞ 博士（理学） 地域と都市の経済	兼任	講師	福井 一喜 (36) ＜令和5年4月＞ 博士（理学） 地域と都市の経済	その他	講師	福井 一喜 (37) ＜令和5年4月＞ 博士（理学） 地域と都市の経済
兼任	講師	寶喜 みどり (63) ＜令和4年4月＞ 文学修士 英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	寶喜 みどり (63) ＜令和4年4月＞ 文学修士 英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	寶喜 みどり (64) ＜令和4年4月＞ 文学修士 英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	寶喜 みどり (65) ＜令和4年4月＞ 文学修士 英語Ⅰ 英語Ⅱ	その他	講師	寶喜 みどり (66) ＜令和4年4月＞ 文学修士 英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	本間 由香利 (56) ＜令和4年4月＞ 修士（言語学）※ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	兼任	講師	本間 由香利 (56) ＜令和4年4月＞ 修士（言語学）※ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	兼任	講師	本間 由香利 (57) ＜令和4年4月＞ 修士（言語学）※ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	兼任	講師	本間 由香利 (58) ＜令和4年4月＞ 修士（言語学）※ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	その他	講師	本間 由香利 (59) ＜令和4年4月＞ 修士（言語学）※ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ
兼任	講師	牧野 修也 (55) ＜令和5年4月＞ 博士（社会学） 質的調査法	兼任	講師	牧野 修也 (54) ＜令和5年4月＞ 博士（社会学） 質的調査法	兼任	講師	牧野 修也 (55) ＜令和5年4月＞ 博士（社会学） 質的調査法	兼任	講師	牧野 修也 (56) ＜令和5年4月＞ 博士（社会学） 質的調査法	その他	講師	牧野 修也 (57) ＜令和5年4月＞ 博士（社会学） 質的調査法
兼任	講師	増山 栄一 (66) ＜令和4年4月＞ Ph. D. Anthropology（米園） 英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	増山 栄一 (66) ＜令和4年4月＞ Ph. D. Anthropology（米園） 英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	増山 栄一 (67) ＜令和4年4月＞ Ph. D. Anthropology（米園） 英語Ⅰ 英語Ⅱ	兼任	講師	増山 栄一 (68) ＜令和4年4月＞ Ph. D. Anthropology（米園） 英語Ⅰ 英語Ⅱ			
兼任	講師	水野（板垣）由香里 (47) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学） 経営学概論	兼任	講師	水野（板垣）由香里 (47) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学） 経営学概論	兼任	講師	水野（板垣）由香里 (48) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学） 経営学概論	兼任	講師	水野（板垣）由香里 (49) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学） 経営学概論	その他	講師	水野（板垣）由香里 (50) ＜令和4年4月＞ 博士（経営学） 経営学概論
兼任	講師	吉本 光宏 (65) ＜令和6年4月＞ 工学修士 文化芸術政策論	兼任	講師	吉本 光宏 (63) ＜令和6年4月＞ 工学修士 文化芸術政策論	兼任	講師	吉本 光宏 (64) ＜令和6年4月＞ 工学修士 文化芸術政策論	兼任	講師	吉本 光宏 (65) ＜令和6年4月＞ 工学修士 文化芸術政策論	その他	講師	吉本 光宏 (66) ＜令和6年4月＞ 工学修士 文化芸術政策論
兼任	講師	リム・ペクチェン (51) ＜令和5年4月＞ 博士（学術） Japan Studies	兼任	講師	リム・ペクチェン (50) ＜令和5年4月＞ 博士（学術） Japan Studies	兼任	講師	リム・ペクチェン (51) ＜令和5年4月＞ 博士（学術） Japan Studies	兼任	講師	リム・ペクチェン (52) ＜令和5年4月＞ 博士（学術） Japan Studies	その他	講師	リム・ペクチェン (53) ＜令和5年4月＞ 博士（学術） Japan Studies
兼任	講師	渡邊 綱男 (69) ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 自然/環境保護行政概論	兼任	講師	渡邊 綱男 (67) ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 自然/環境保護行政概論	兼任	講師	渡邊 綱男 (67) ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 自然/環境保護行政概論	兼任	講師	渡邊 綱男 (68) ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 自然/環境保護行政概論	その他	講師	渡邊 綱男 (69) ＜令和6年4月＞ 博士（農学） 自然/環境保護行政概論
兼任	講師	和良地 克茂 (68) ＜令和6年4月＞ 修士（工学） 不動産投資論	兼任	講師	和良地 克茂 (66) ＜令和6年4月＞ 修士（工学） 不動産投資論	兼任	講師	和良地 克茂 (67) ＜令和6年4月＞ 修士（工学） 不動産投資論	兼任	講師	和良地 克茂 (68) ＜令和6年4月＞ 修士（工学） 不動産投資論	その他	講師	和良地 克茂 (69) ＜令和6年4月＞ 修士（工学） 不動産投資論

（注） 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

- 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）（その2の2）（その2の3）に準じて作成してください。
- なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等（令和4年10月1日施行前）に基づき、研究学部等を設置している場合、改正前大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以前については、改正前様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（基幹教員（大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」）以外の教員（助手を除く）（改正前大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員）を含む。）を黒字で記入してください。

その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【令和6年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【令和7年度】

教員区分	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

- ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」（改正後大学設置基準等の適用以前は「専任等区分」）の順に記入してください。
- ・改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。（大学院、高等専門学校は除く）
- ・教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間（年月日）を上段「学位」の下へ記入してください。
- ・不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

- ・専任の潘斐斐助教が、学位「博士(学際情報学)」を取得。
取得年月日：令和3年6月11日
授与機関名：東京大学大学院学際情報学部
学位記番号：博士学情第168号
論文名：Locating and Localizing the Art Networks: A Sociological Examination of the Roles of Place in Art Networks in Ueno, Tokyo in the Meiji Period
(アートネットワークと場所 ―明治期東京上野におけるアートネットワークに関する社会学的研究)
- ・兼任の稲垣浩の職位について、令和4年度に准教授から教授に昇格。
- ・兼任の羅芝賢の職位について、令和4年度に専任講師から准教授に昇格。
- ・兼任の中曽根玲子教授が派遣研究期間(国内)にあたるため、「法と社会参加(企業での活動と法)」については、花田弘介兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「比較文化論Ⅰ」の開講年度の変更により、兼任の岩瀬由佳教授の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。
- ・授業科目「地域と都市の経済」の開講年度の変更により、兼任の福井一喜講師の就任年月を令和4年4月から令和5年4月に変更。

【令和5年度】

- ・兼任の矢野節太郎の職位について、令和5年度に准教授から教授に昇格。
- ・兼任の福岡英明教授が派遣研究期間(国内)にあたるため、「法学(日本国憲法)」については、小林宇宙兼任講師に担当教員変更。
- ・小野雅子兼任講師の辞任により、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」については、岡本さだこ兼任講師に担当教員変更。
- ・丹野(江部)春香兼任講師の就任辞退により、「生涯学習概論」については、岩松真紀兼任講師に担当教員変更。
- ・岡田誠兼任講師の授業科目について、「基礎日本語」から「アカデミック・リテラシーⅠ」に科目名称変更。
- ・授業科目「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、履修者増加による増コマのため、富所明秀兼任講師を追加。

【令和6年度】

- ・兼任の備前嘉文の職位について、令和6年度に准教授から教授に昇格。
- ・兼任の大道(山中)晴香の職位について、令和6年度に助教から准教授に昇格。
- ・兼任の柏木亨介の職位について、令和6年度に助教から准教授に昇格。
- ・授業科目「日本文化を知る(儀礼文化研究)」については、兼任の石井研二教授から大道(山中)晴香准教授に担当教員変更。
- ・授業科目「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」について、兼任の矢野節太郎教授から猪刈由紀兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「地域ブランディング論」について、深谷信介兼任講師から東徹兼任講師に担当教員変更。
- ・小林宇宙兼任講師の辞任により、「法学(日本国憲法)」については、柴田竜太郎兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」について、履修者増加による増コマのため、崔英善兼任講師を追加。

【令和7年度】

- ・基(主専門)の児玉(大澤)千絵講師の産前産後休業および育児休業の取得により、「地理空間情報分析」「観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)」「基礎ゼミナールA」について、担当授業科目から削除。
- ・兼任の岩瀬由佳教授が派遣研究期間(国外)にあたるため、「比較文化論Ⅰ」について、田窪大介兼任講師に担当教員変更。
- ・兼任の植原吉朗教授の退職により、「日本文化を知る(武道の特性と国際化)」「スポーツ実技A」について、兼任の田村昌大准教授に担当教員変更。
- ・授業科目「行政と市民生活(デジタル時代の行政と社会)」について、兼任の羅芝賢准教授から島田裕平兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」について、猪刈由紀兼任講師から立川睦美兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「地理学概論」について、杉本興運兼任講師から池田和子兼任講師に担当教員変更。
- ・高久健二兼任講師の辞任により、「コリア語Ⅰ」「コリア語Ⅱ」については、崔英善兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「多変量解析」について、中村大兼任講師から外山昌樹兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「法と社会参加(企業での活動と法)」について、花田弘介兼任講師から阿部哲也兼任講師に担当教員変更。
- ・授業科目「博物館経営論」について、半田昌之兼任講師から栗原祐司兼任講師に担当教員変更。
- ・増山 榮一兼任講師の辞任により、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」については、石原久子兼任講師に担当教員変更。

(注)・変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・認可で設置された学部等の基幹(専任)教員を変更する場合は、当該基幹(専任)教員が授業を開始する前に必ず「基幹(専任)教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A・C教員審査)を受けてください。

原則としてA・C教員審査を受けずに基幹(専任)教員として授業等を担当することは出来ません。

なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した

「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A・C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。(改正後大学設置基準等の適用にあたり、

「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A・C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A・C教員審査を受審する必要があります

- ・A・C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十一条第二項（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の基幹教員数について、「(2) -① 設置基準上の必要基幹教員数」及び「(2) -② 基幹教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における 設置基準上の必要基 幹教員数（α）	うち、完成年度時における 設置基準上の必要 教授数	うち、完成年度時における 設置基準上の専ら当該学部 等の教員研究に従事する必 要基幹教員数（α）の4 分の3以上
17	9	9
名	名	名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一、高等専門学校設置基準第六条第九項により算出される基幹教員数を記入してください。
・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 基幹教員等数【大学・高専】

設置時の計画							現在（報告時）の状況						
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	うち専ら当該学部等の 教育研究に従事する者 （「基（主専）」及び 「基（専）」の計 （A'）	助手（A''）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	うち専ら当該学部等の 教育研究に従事する者 （「基（主専）」及び 「基（専）」の計 （B'）	助手（B''）
17	9	3	1	30	30	6	17	9	3	1	30	30	6
(16)	(9)	(3)	(1)	(29)	(29)	(3)							
現在（報告時）の完成年度時の状況							現在（報告時）の完成年度時の計画						
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	うち専ら当該学部等の 教育研究に従事する者 （「基（主専）」及び 「基（専）」の計 （C'）	助手（C''）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	うち専ら当該学部等の 教育研究に従事する者 （「基（主専）」及び 「基（専）」の計 （D'）	助手（D''）
17	9	3	1	30	30	6	17	9	3	1	30	30	6
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・高等専門学校の場合、「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」欄は、「うち専ら当該高等専門学校の教育に従事する者（「基一」及び「基専」の計）」として記入してください。
・なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画（改正前大学設置基準等）」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。
・また、「計（A）」の「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）（A'）」欄には「－」を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、（ ）内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70	2	2
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{2}{30} = \boxed{6.66} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C''）}}{\text{設置時の計画（A''）}} = \frac{6}{6} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹(専任)教員辞任等の理由

(3) - ① 基幹(専任)教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹(専任)教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
-	-	-	-				-
合 計 (D)						後任補充状況の集計 (E)	
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹(専任)教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹(専任)教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」
 ・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼任教員)が担当する(している)場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹(専任)教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
-	-	-	-				-
合 計 (F)						後任補充状況の集計 (G)	
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注)・一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹(専任)教員**について、記入してください。

- (学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹(専任)教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」
 ・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼任教員)が担当する(している)場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0
		計	0	科目	計	0	科目	計	0

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{30} = 0 \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹(専任)教員等の状況

0 人

(注)・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹(専任)教員数の合計数を記載してください。

・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) ー⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
-	-	-	-			-							
合 計					後任補充状況の集計								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ） 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

(注)・ 上記（3）の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時	1. カリキュラム・ツリーにおいて、必修科目である「社会学概論」は展開科目の「基礎Ⅰ類（社会）」のみに関連するように記載されているが、本科目は他の科目区分とも関連することから、当該ツリーを学生に示す際は、科目間の対応関係を明確にした上で、誤解が生じないように分かりやすく示すことが望ましい。	1年次生に対しては、カリキュラムツリーそのものを配布しても理解が進まないと考え、「助言」の内容をふまえたカリキュラムツリーをもとに作成した資料（別紙1、別紙2）を用いて4月6日に学部ガイダンス（履修ガイダンス）を実施し、カリキュラムの体系性と各科目群の狙いを詳細に説明した上で、系統的な履修を心がけるよう促した。（4） 令和5年度も新入生に対して上記のガイダンスを実施した。また、令和4年度に計画したとおり、2年次生向けのガイダンス資料を用いて、2年次生に対しても学部ガイダンス（履修ガイダンス）を実施して、カリキュラムの体系性について再認識する機会を設けた。（5） 【認可】 助言事項 令和6年度も新入生に対して上記のガイダンスを実施した。また、学部専門科目ガイダンスや履修相談会を実施し、カリキュラムの体系性に関する理解を深める機会を設けた。また、令和4年度に計画したとおり、2年次生向けのガイダンス資料を用いて、2年次生に対しても専門科目ガイダンスを実施して、カリキュラムの体系性について再認識する機会を設けた。（6） 令和7年度も新入生に対して上記のガイダンスを実施した。また、学部専門科目ガイダンスや履修相談会を実施し、カリキュラムの体系性に関する理解を深める機会を設けた。2年次においては、学生の関心が集まる各演習科目と専門ゼミナールのガイダンス（別紙3）を実施して、専門教育科目の体系性について再認識する機会を設けた。（7）	次年度以降も新入生に対して同様のガイダンスを実施する。また、2年生以上の学生に対しては、別途履修ガイダンスを実施することで、観光まちづくり学部のカリキュラムに対する理解を深め、体系的な履修が行われることを担保する。（4） 次年度以降も、新入生と2年次生向けに、履修ガイダンスを実施して、観光まちづくり学部のカリキュラムの理解を深め、体系的な履修が行われることを担保する。（5）（6） 次年度以降も、新入生には履修ガイダンス等、2年次生には各演習科目と専門ゼミナールのガイダンスをそれぞれ実施して、観光まちづくり学部のカリキュラムの理解を深め、体系的な履修が行われることを担保する。（7）
（令和4年）		履行済	

認可時 (令和4年)	2.「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」について、学生60人程度に対して助手1名を配置する計画となっているが、配置される助手に過度な負担がかからないよう十分に配慮するとともに、必要に応じて追加で助手を配置することも含めて、適切な助手の配置計画に留意することが望ましい。	【認可】 助言事項	「観光まちづくり演習Ⅰ」は令和5年前期から開始されるため、右記の実施計画の通り、適切な助手の配置となるよう留意する。(4) 令和5年度は新たに3名の助手を採用し、当初計画のとおり、助手6名の配置が完了した。令和5年度前期開講の「観光まちづくり演習Ⅰ」には6名全員が携わっており、授業運営のサポート役となる助手に過度な負担がかからないよう、演習の運営委員会を定期的に開催し、助手の役割と負担について確認・調整している。(5) 演習の運営委員会を定期的に開催し、助手の役割と負担について確認・調整している。また、令和6年度の「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」に向けて令和6年3月より学修アシスタント(学生アルバイト)の雇用を開始し、教材準備などにおいて助手の負担を分散するようにした。(6) 令和5年度から引き続き演習の運営委員会を定期的に開催し、助手の役割と負担について確認・調整している。また、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」の補助のために令和6年3月から雇用を開始している学修アシスタント(学生アルバイト)についても継続的に雇用・配置し、教材準備などにおいて助手の負担を分散するようにしている。(7)	履行済	「観光まちづくり演習Ⅰ」が令和5年前期から開始されるため、適宜、助手の負担状況にも目を配り、必要に応じてスチューデント・アシスタント制度も利用するなどして、助手に過度な負担がかからないよう配慮する。(4) 令和5年度後期の「観光まちづくり演習Ⅱ」と、令和6年度前期の「観光まちづくり演習Ⅲ」の開講に向けて、今後も演習の運営委員会を定期的に開催しつつ、助手に過度な負担がかからないよう調整する。(5) 演習運営委員会を定期的に開催しつつ、助手に過度な負担がかからないように調整する。また、「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ」の教材準備やグループワークのファシリテートにおいて、学修アシスタント(学生アルバイト)を引き続き活用し、助手の負担を分散する。(6)(7)
--------------------------	---	----------------------	--	------------	---

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)(7)」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<観光まちづくり学部 観光まちづくり学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 卒業要件単位数 以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。 【共通教育科目】（26単位以上） ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 【専門教育科目】（74単位以上） ※内容省略	① 卒業要件単位数において、共通教育科目のSTEM系科目群（「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」）から1科目2単位以上を選択必修とすることを共通教育科目の単位修得条件に追加する。 共通教育科目は、全学共通で人間力・社会力を育み学ぶために設けられた科目で、Science、Technology、Engineering及びMathematicsの頭文字を付したSTEM系科目群は、今後ますます技術革新が進むであろう社会にあって、エビデンスに基づいて適切な情報を選択し、既成の概念を論理的かつ批判的に検証し、又は革新的な提案をするために、文系、理系を問わずに必要な知識と能力を修得する科目群である。 複数の学問分野の融合によって地域を理解し、地域の実情に即した課題解決型の教育を目指す観光まちづくり学部においては、複眼的にもものを見る力を養ううえでも、STEM系科目群は専門教育を補完し学修を深める重要な科目群となることから、単位修得条件に追加し変更する。 変更後の卒業要件は以下のとおり。 ▼卒業要件 以下の単位修得条件を満たし、共通教育科目から26単位以上、専門教育科目から74単位以上を修得し、合計124単位以上を修得するものとする。 【共通教育科目】（26単位以上） ・「神道と文化」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を必修科目とする。 ・「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」から1科目2単位以上を選択必修とする。 ・「コンピュータと情報Ⅰ」「コンピュータと情報Ⅱ」「情報科学入門」「科学的思考法」「地球環境と人間」「宇宙物理学入門」から1科目2単位以上を選択必修とする。 【専門教育科目】（74単位以上） ※内容省略
② 施設・設備 a 学部長室（20.90㎡） b 会議室（20.90㎡）	② 観光まちづくり学部の管理運営機能を強化するために学部長室（20.90㎡）を増設した。 打ち合わせの増加に対応するために会議室（20.90㎡）を増設した。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

観光まちづくり学部では、教員の資質の維持向上のため、以下3つの委員会を設置している。

1. 観光まちづくり学部教務委員会・FD委員会

・観光まちづくり学部教務委員会・FD委員会は、学部教員9名から構成されている。なお、教務委員会・FD委員会は、「教員の資質の維持向上の方策」だけでなく、教務全般を取扱う委員会である。

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

・観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会は、正副学部長を含む学部教員と3人の外部委員、および本学事務課員から構成されている。（別紙4「観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程」）

3. 各種演習科目運営委員会

・観光まちづくり学部の演習科目「導入ゼミナール」「基礎ゼミナールA・B」「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「専門ゼミナール」「卒業研究」準備と実施のため、以下の通り、科目別の運営委員会が組織されている。

<演習運営委員会>

- ・導入ゼミナール運営委員会
- ・基礎ゼミナール運営委員会
- ・観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ運営委員会
- ・専門ゼミナール運営委員会
- ・「卒業研究」運営委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

各委員会の開催状況は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD委員会

・令和6年度、観光まちづくり学部FD委員会は観光まちづくり学部教務委員会と同時に開催され、計16回開催された（別紙5「令和6年度観光まちづくり学部教務委員会開催実績」）。

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

・令和6年6月12日に実施した。

3. 各種演習科目運営委員会

・「導入ゼミナール」「基礎ゼミナールA・B」「観光まちづくり演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「専門ゼミナール」「卒業研究」の準備と実施のため、科目ごとの運営委員会が組織されている。

<演習運営委員会>

- ・導入ゼミナール運営委員会（教員2名）：月1回程度
- ・基礎ゼミナール運営委員会（教員4名）：月1-2回程度
- ・観光まちづくり演習Ⅰ運営委員会（参加教員2名）：月1-2回程度
- ・観光まちづくり演習Ⅱ運営委員会（参加教員5名）：月1-2回程度
- ・観光まちづくり演習Ⅲ運営委員会（参加教員5名）：月1-2回程度
- ・専門ゼミナール運営委員会（参加教員6名）：月1-2回程度
- ・「卒業研究」運営委員会（参加教員6名）：月1-2回程度

c 委員会の審議事項等

各委員会の審議事項等は、以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD委員会

- (1) 教員の教育能力向上のために行う研修・研究会等の計画と実施運営
- (2) 授業方法の改善・向上に関する情報の収集と提供
- (3) 教育施設・設備の改善に関する検討と提案
- (4) シラバスの点検及び改善策の立案
- (5) 教材の作成支援に関する検討と提案
- (6) 授業・教育状況に関する学生および教員への定期的アンケートの実施
- (7) 学生による授業評価の実施
- (8) 授業改善学生会議の設置と運営助成
- (9) 授業観察・検討会の企画および実施運営
- (10) FD活動に関する成果の発信と公開
- (11) FD活動に関する教育開発推進機構との連携

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

- (1) 学部運営の点検・評価
- (2) 学部運営の改善に関する提言
- (3) 地域マネジメント研究センターの運営に関する助言
- (4) 地域、並びに外部機関との連携推進に関する助言・提言
(別紙4「観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程」)

3. 各種演習科目運営委員会

- (1) 授業方法に関する検討と提案
- (2) 教育施設・設備に関する検討と提案
- (3) 教授法や教材等に関する検討と提案

② 実施状況

a 実施内容

令和6年度の実施内容は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD事業（観光まちづくり学部FD委員会主催）

令和6年度、観光まちづくり学部ではFD事業として、本学部の核となる「観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ」に関する教員の資質の維持向上のために「「観光まちづくり演習」の開講に向けたスキルアップ事業」を実施した。具体的には、下記4つの事業を実施した。（別紙6「令和6年度観光まちづくり学部『FD推進助成事業』事業報告書」）

<実施した事業>

- ① 担当教員の相互理解に向けた研究会（計6回）
- ② 先進地域の視察：12月20日～22日に三重県松阪市、伊勢市及び鳥羽市へのエクスカージョンを実施
- ③ 先進地域のキーパーソンを囲んだディスカッション（計3回）
- ④ ②に関するアンケート調査の実施（1回）

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

令和6年度は令和6年6月12日に実施した。

3. 各種演習科目運営委員会

科目ごとの運営委員会を開催し、授業方法、教育施設・設備、教授法や教材等に関する検討を重ねた。

b 実施方法

令和6年度の実施方法は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD事業（観光まちづくり学部FD委員会主催）

前述の通り、下記4つのFD事業を実施した。①、③に関しては、本学たまプラーザキャンパス若木21（本学部が拠点とする建物）において実施した。②は、三重県松阪市、伊勢市及び鳥羽市において実施した。（別紙6「令和6年度観光まちづくり学部『FD推進助成事業』事業報告書」）

<実施した事業>

- ① 担当教員の相互理解に向けた研究会（6回）：本学たまプラーザキャンパス若木21で実施
- ② 先進地域の視察：12月20日～22日に三重県松阪市、伊勢市及び鳥羽市へのエクスカージョンを実施
- ③ 先進地域のキーパーソンを囲んだディスカッション（3回）：本学たまプラーザキャンパス若木21で実施
- ④ ②に関するアンケート調査の実施（1回）

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

前述の通り、令和6年6月12日に実施した。

3. 各種演習科目運営委員会

前述の通り、本学たまプラーザキャンパス若木21で科目ごとの運営委員会を定期的に行う。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和6年度の開催状況は以下の通り。

1. 観光まちづくり学部FD事業

前述の通り、下記4つのFD事業を実施した。開催回数と時期、参加人数は、以下の通り。（別紙6「令和6年度観光まちづくり学部『FD推進助成事業』事業報告書」）

<実施した事業>

①担当教員の相互理解に向けた研究会：6回開催（別紙7「令和6年度担当教員の相互理解に向けた研究会」、5/9・38名、10/9・36名、10/23・32名、11/13・30名、12/18・36名、1/15・34名）

②先進地域の視察：12月20日～22日に三重県松阪市、伊勢市及び鳥羽市へのエクスカージョンを実施（23名）

③先進地域のキーパーソンを囲んだディスカッション：3回開催（別紙8「令和6年度『観光まちづくりカフェ』実施状況」、6/26・49名（学生・その他含む）、10/8・46名（学生・その他含む）、3/3・50名（学生・その他含む））

④②に関するアンケート調査の実施（2024年12月24日～2025年1月17日）：14人回答

2. 観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会

前述の通り、令和6年6月12日に実施した。

3. 各種演習科目運営委員会

前述の通り、本学たまプラーザキャンパス若木21で科目ごとの運営委員会を定期的に開催した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

以上の実施結果は、観光まちづくり学部教員に共有されており、各教員が実施内容を踏まえて令和7年度の授業内容や授業運営に反映させている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

本学では、各学期末に授業評価アンケートを実施している。観光まちづくり学部の開講科目においても前期末の7月、後期末の1月に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各授業のアンケート結果は、担当教員が学修支援システムK-SMAPYⅡ上で閲覧可能である。また、アンケート結果に対する教員のリプライコメントは、学生がK-SMAPYⅡ上で閲覧可能である。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙9「観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」参照。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和8年4月 公表（予定）

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和8年4月）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・令和4年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けた
- ・令和11年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける（予定）

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 < 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

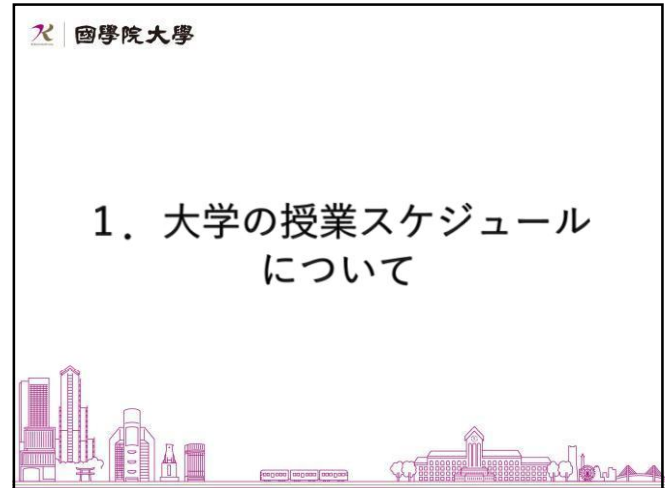
d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

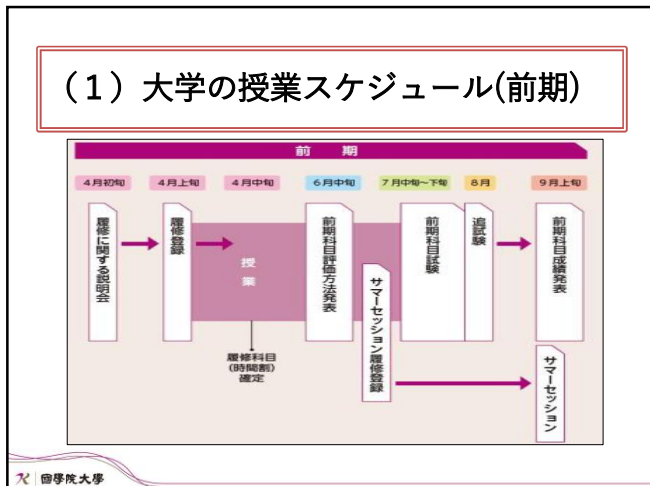
別紙1



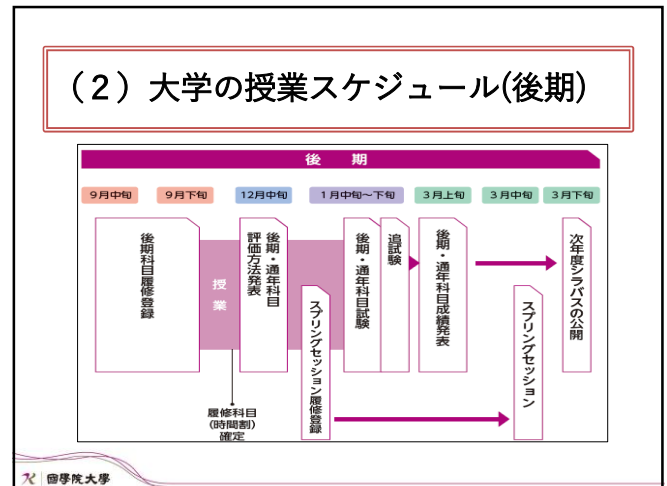
1



2



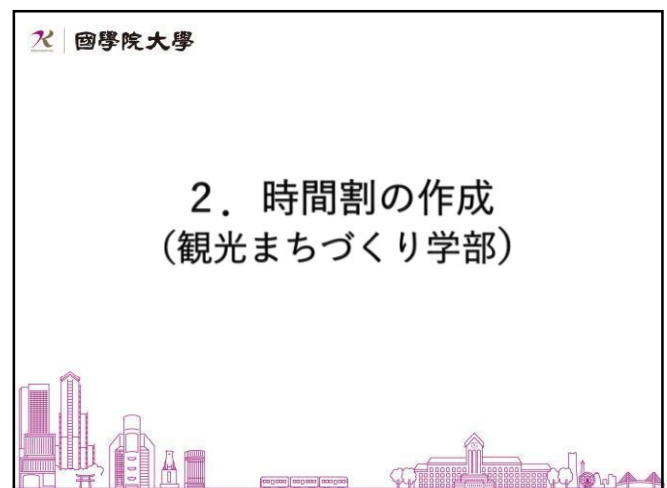
3



4

● 1次募集: 4月 3日 (木) 12:00～4月 7日 (月) 12:50
 ● 2次募集: 4月 9日 (水) 12:00～4月12日 (土) 12:50
 ● 3次募集: 4月15日 (火) 12:00～

5



6

(1) 卒業に必要な科目を知る

卒業に必要な最低単位数

区分	学科
①共通教育科目	26単位以上
②専門教育科目	74 単位以上
③下記を自由に組み合わせて	
・①を超えた単位	24単位以上
・②を超えた単位	
・全学オープン科目の単位	
合計	124単位以上

信学院大学

7

(1) 卒業に必要な科目を知る

- ・**必修科目** : 必ず修得しなければならない科目
- ・**選択必修科目** : 決められた枠の中から必要な単位数を修得しなければならない科目
- ・**選択科目** : 自由選択

優先順位



信学院大学

8

(1) 卒業に必要な科目を知る

共通教育プログラム (26 単位以上)

科目の種類	科目 (または科目区分)	単位数
必修	神道と文化	2単位
選択必修	英語	8単位 (必修)
	言語スキル科目群	外国語 4単位 (選択必修)
	STEM系科目群 ※まちづくりとエンジニアリングは除く	2単位以上
選択	上記以外の共通教育科目	
合計		26単位以上

信学院大学

9

(1) 卒業に必要な科目を知る

観光まちづくり学科 専門教育科目の構成と履修方法は次のとおりです。

科目区分	卒業要件
導入科目	必修 2科目4単位
メソッド科目	必修 1科目2単位 選択必修 2科目4単位
演習	必修 6科目18単位 選択必修 1科目2単位
展開科目	選択必修 2科目4単位
	必修 1科目2単位 選択必修 2科目4単位
	必修 1科目2単位 選択必修 2科目4単位
	必修 1科目2単位 選択必修 2科目4単位
発展 I ～IV類	選択必修6科目12単位
トピックス科目・関連科目	選択
合計	74単位

左記の条件を満たした上で、基礎 I ～IV類より計13科目26単位

この枠内の科目数、単位数だけでは11科目22単位にしかならないので注意すること。

信学院大学

10

(1) 卒業に必要な科目を知る

履修要綱

科目区分	授業科目	開講	履修方法
導入科目	信学院開校	1年 2 〇	2科目4単位必修
	まちづくりと観光	1年 2 〇	1科目2単位必修
	社会調査入門	1年 2 〇	
	統計学の基礎	1年 2 〇	
メソッド科目	プログラミングと数学基礎	2年 2 〇	
	データサイエンスと観光	2年 2 〇	
	プロダクトデザイン・観光と文化	2年 2 〇	
	データサイエンス	2年 2 〇	2科目4単位選択必修
演習科目	観光調査	3年 2 〇	
	多文化理解	3年 2 〇	
	地域や国際理解	3年 2 〇	
	まちづくりと観光	3年 2 〇	
展開科目	観光まちづくりと観光	3年 4 〇	6科目18単位必修
	まちづくりと観光	3年 2 〇	
	観光まちづくりと観光	3年 2 〇	
	観光まちづくりと観光	3年 2 〇	
発展科目	観光まちづくりと観光	3年 2 〇	1科目2単位選択必修
	観光まちづくりと観光	3年 2 〇	
	観光まちづくりと観光	3年 2 〇	
	観光まちづくりと観光	3年 2 〇	
トピックス科目・関連科目	コミュニケーション論	2年 2 〇	2科目4単位選択必修
	観光と観光の経済学	2年 2 〇	
	グローバル化と観光	2年 2 〇	
	観光まちづくりと観光	2年 2 〇	

開講学年
記載されている学年以降の学年であれば、該当の科目を履修できます。

例)「データサイエンス」の場合
2年生以上であれば履修可
※3年生以降でも履修できる

履修方法
必修の条件などが記載されています。

信学院大学

11

(2) 進級条件について

全学年共通

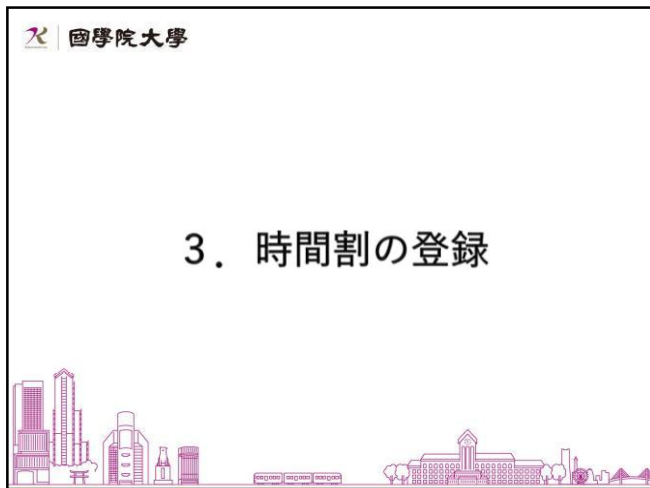
各年次に1学期以上在学すること

2年生→3年生 への進級条件

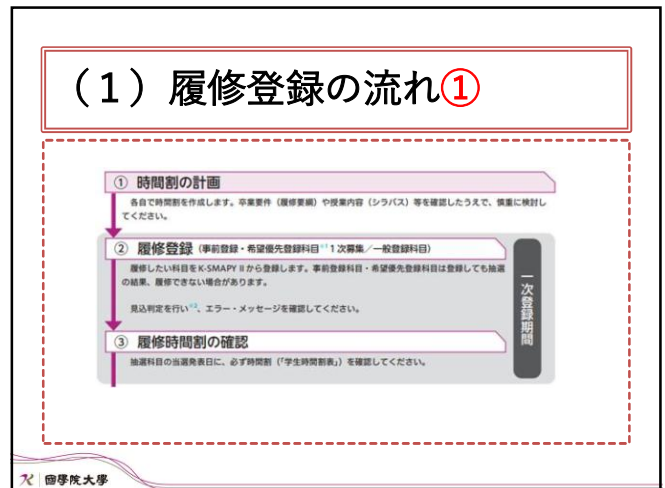
- ①2年次終了までに3学期以上在学
- ②卒業に要する単位で**34単位以上**を修得すること。

信学院大学

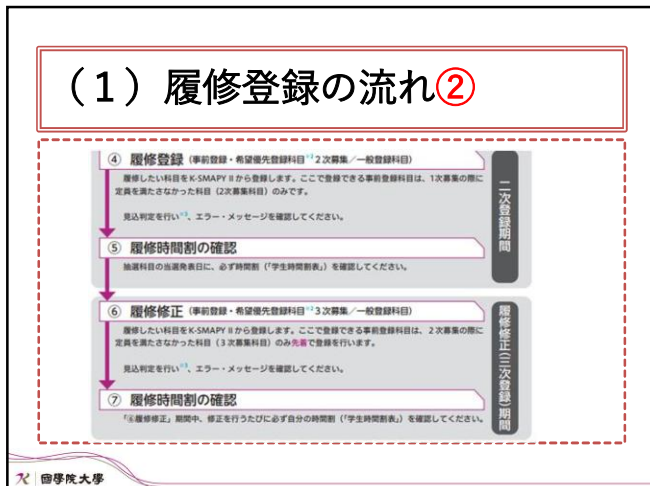
12



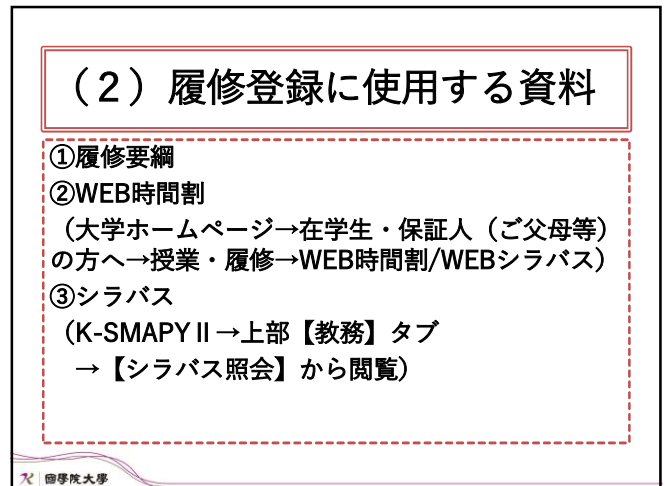
13



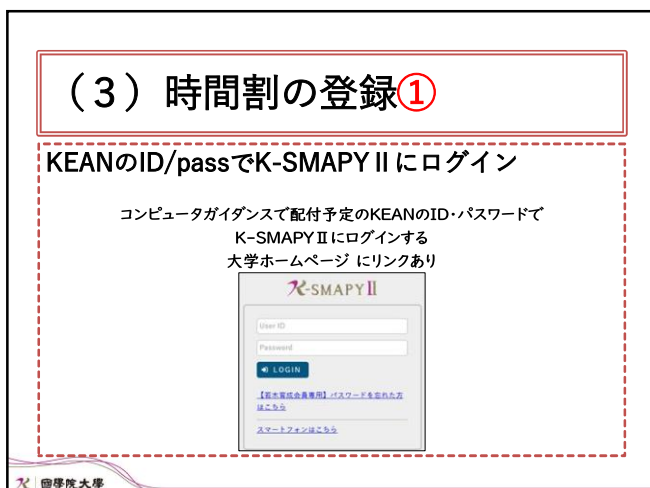
14



15



16



17

(3) 時間割の登録②

履修登録の種類

登録方法	登録方式	抽選	注意事項
一般登録	なし	なし	● K-SMAPY II から自身で削除可能 ● 履修登録者が定員に達した時点で受付を終了する可能性がある
事前登録	一般抽選方式（抽選）	あり	● 締切後、抽選結果発表まで、該当の時間には他の科目を登録できない ● 抽選後、空きがあれば2次募集を行う ● 当選科目は定員に達していない場合のみ削除できる（K-SMAPY IIにて）
	希望優先方式（抽選〔希望〕）	あり	● 複数希望選択可能（上限は科目によって異なる） ● 選択後、抽選結果発表まで、該当の時間には他の科目を登録できない ● 抽選後、空きがあれば2次募集を行う ● 当選科目は定員に達していない場合のみ削除できる（K-SMAPY IIにて）

18

(3) 時間割の登録③

履修登録

登録の操作については、別途公開しているK-SMAPYⅡ操作マニュアルを見ながら進めてください。

履修登録期間内に、余裕をもって、登録してください！

注意！

登録を希望する科目が一般登録なのか、事前登録なのかによって登録メニューが異なります。

科目の登録区分(一般登録/事前登録/指定登録…)は大学ホームページ「WEB時間割」で確認しましょう。

(4) よくある質問

その他、よくある質問については、大学HPでQ&Aを公開しています。後ほど、ご確認ください。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/tuition/p12>



4. 授業の出席



(1) 事前準備

①教科書を用意する

※生協で教科書販売を実施→I号館地下I階

※抽選中の科目は当選後に購入を(返品不可)

②授業内容を確認する→シラバス

③授業形態(対面or遠隔)を確認する

④休講情報を確認する→K-SMAPYⅡから

(2) 対面授業教室

履修登録期間中は、K-SMAPYⅡまたはI号館入口の掲示で教室を確認

※履修登録期間中は履修者数の関係で教室変更が多いため、必ず毎日確認すること

K-SMAPYⅡ→履修関連→時間割→学生時間割表



(3) 対面授業の出欠について

■出席リーダーシステム

- 授業開始時刻の10分前～開始後30分
- 一部出席データの反映は5月予定



渋谷キャンパス

	授業時間	出席受付時間
1限	8:50～10:20	8:40～9:20
2限	10:30～12:00	10:20～11:00
3限	12:50～14:20	12:40～13:20
4限	14:30～16:00	14:20～15:00
5限	16:10～17:40	16:00～16:40
6限	17:50～19:20	17:40～18:20
7限	19:30～21:00	19:20～20:00

たまプラーザキャンパス

	授業時間	出席受付時間
1限	9:00～10:30	8:50～9:30
2限	10:45～12:15	10:35～11:15
3限	13:05～14:35	12:55～13:35
4限	14:50～16:20	14:40～15:20
5限	16:35～18:05	16:25～17:05
6限	18:15～19:45	18:05～18:45

(4) 教務上の伝達事項について

教務上の伝達事項（授業・休講・試験・成績など）は、学生支援システム「K-SMAPY II」の「教務に関するお知らせ」に掲示します。

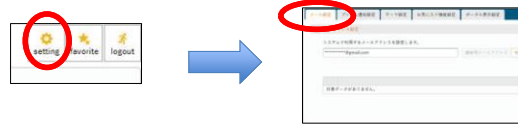
- ◆必ず毎日ご確認ください
 - ◆配信内容の未確認による手続き不備等は一切救済しません
- 大学ホームページにアクセスし、学生支援システム「K-SMAPY II」のボタンをクリックしてください。

(5) 連絡先の登録

メールアドレスの登録

大学からのメール配信はここで登録したメールアドレス宛に行われます。
「setting」→「メール設定」より必ず登録してください！

登録方法については、K-SMAPY II 操作マニュアルを確認してください。



この後、やるべきこと

本日の説明会は、簡易的なものです。必ず以下の確認をしてください。

- ①「履修に関する説明動画」（ホームページ）
HPに掲載中
「在学生」→「授業・履修」→履修相談／履修登録／履修に関する説明会
- ②「履修要綱」（冊子）
卒業するまでの4年間継続して使用する
- ③「時間割作成上の注意事項」（ホームページ）
HPに掲載中
「在学生」→「授業・履修」→「WEB時間割/WEBシラバス」



渋谷キャンパス 平150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 | たまプラーザキャンパス 平225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1

専門科目ガイダンス／学生企画

13:30～14:10 専門科目ガイダンス

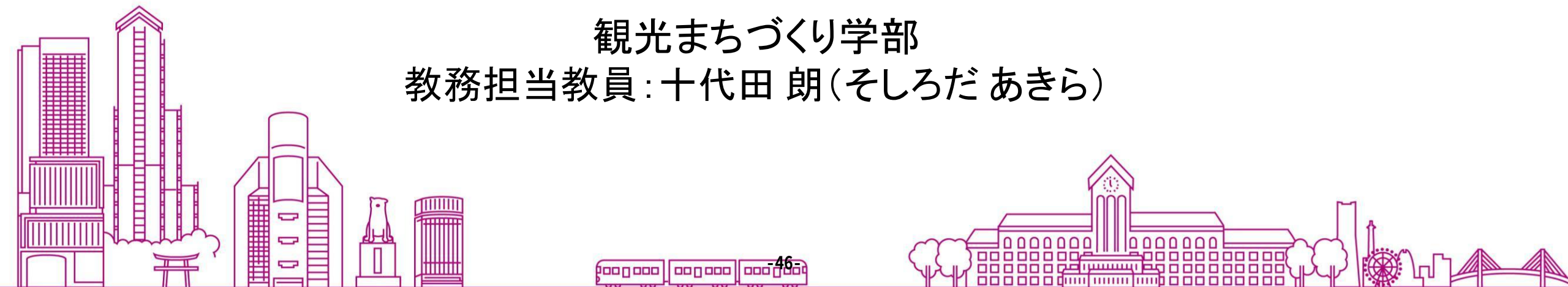
14:10～14:30 学習支援

14:40～15:30 学生企画

2025年4月1日

観光まちづくり学部

教務担当教員：十代田 朗（そしろだ あきら）



観光まちづくり学部 新入生ガイダンス 日程

日付	時間	内容	教室・実施場所
4 / 1	10 : 00～11 : 00	学生証等交付／コンピュータガイダンス ※ア行～タ行の人が対象です	1411 教室
	11 : 00～12 : 00	学生証等交付／コンピュータガイダンス ※ナ行～ワ行の人が対象です	1411 教室
	10 : 30～13 : 00	学部内連絡ツール (Teams/Outlook) 利用ガイダンス	1601～1604 教室
	13 : 00～14 : 30	履修ガイダンス	1605 教室
	14 : 40～15 : 30	学生企画	1605 教室
	15 : 30～16 : 00	図書館ガイダンス	1605 教室
4 / 2	10 : 00～	入学式	グランドプリンスホテル新高輪
4 / 3	10 : 00～10 : 30	健康診断 (女子)	1208 教室
	11 : 00～12 : 15	学部ガイダンス	1605 教室
	12 : 30～13 : 15	ルームの集い	若木 21 各演習室
	13 : 00～14 : 00	学部内連絡ツール利用個別質問会 ※希望者のみ	若木 21 多目的ホール
	14 : 30～15 : 30	博物館学芸員課程説明会※希望者のみ	1605 教室
	16 : 00～17 : 00	健康診断	1208 教室
4 / 4	10 : 30～12 : 00	就職に役立つキャリアガイダンス	1411 教室
	13 : 00～16 : 00	履修相談会 ※希望者のみ	6101 教室 / 若木 21 多目的ホール
4 / 9	9 : 30～11 : 00	トラブル防止ガイダンス	1605 教室
	11 : 30～12 : 30	国際交流ガイダンス	1605 教室
	13 : 30～14 : 30	キャンパスハラスメントガイダンス	1605 教室

新入生の心得

- 最初の作業は自分で時間割を作ること(履修登録)です
 - 履修登録はK-SMAPY II ですでに始まっています
 - 1 回目の履修登録は4 月 7 日 (月) : までです
- K-SMAPY II ,Teamsの操作方法是必ず覚えてください

観光まちづくり学部のカリキュラム

- ✓ 観光・交流を基軸に持続可能な地域の形成及び振興に関する方法論を修得する

とともに、

- ✓ 豊かな教養と学識をもち、観光や交流を通じた活力あふれる地域社会の再生、活性化に貢献できる人材となる

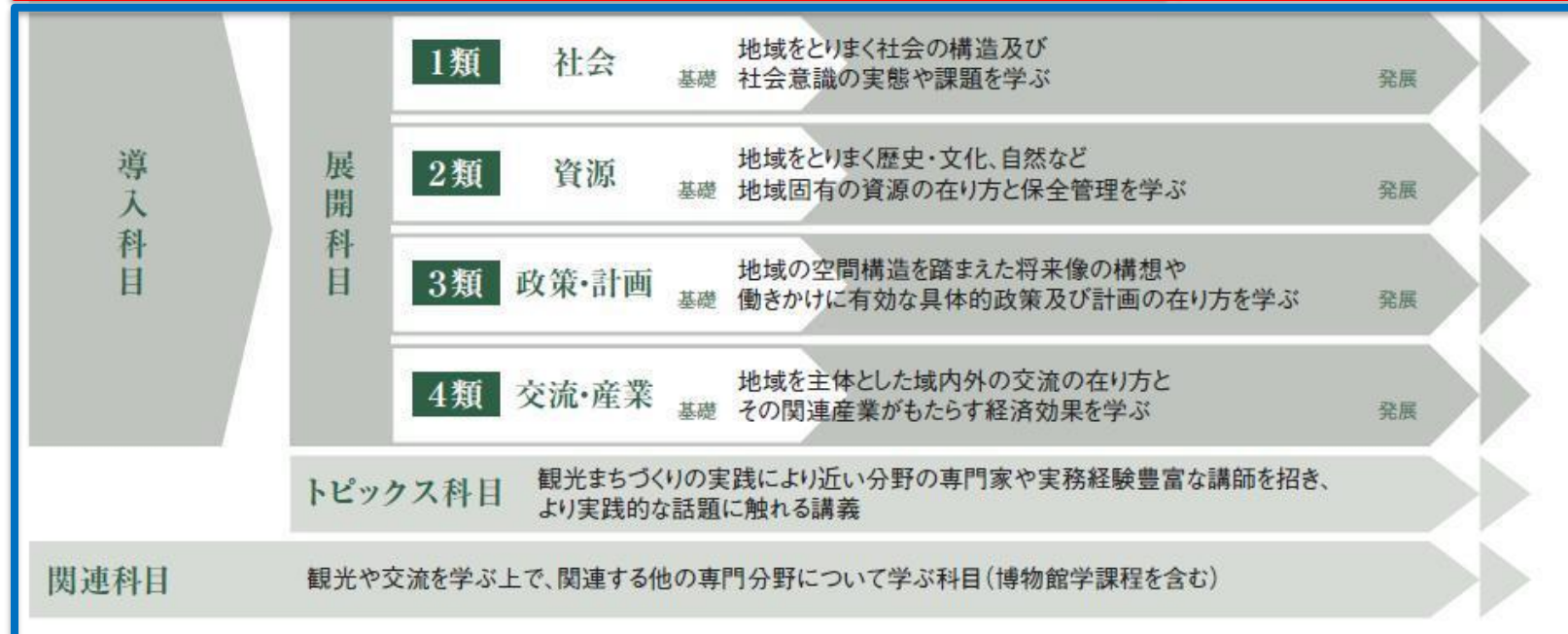
具体的には、

- ✓ 社会、資源、政策・計画、交流・産業、に関する知識・技能を持つ
- ✓ 地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力を持つ

観光まちづくり学部のカリキュラム

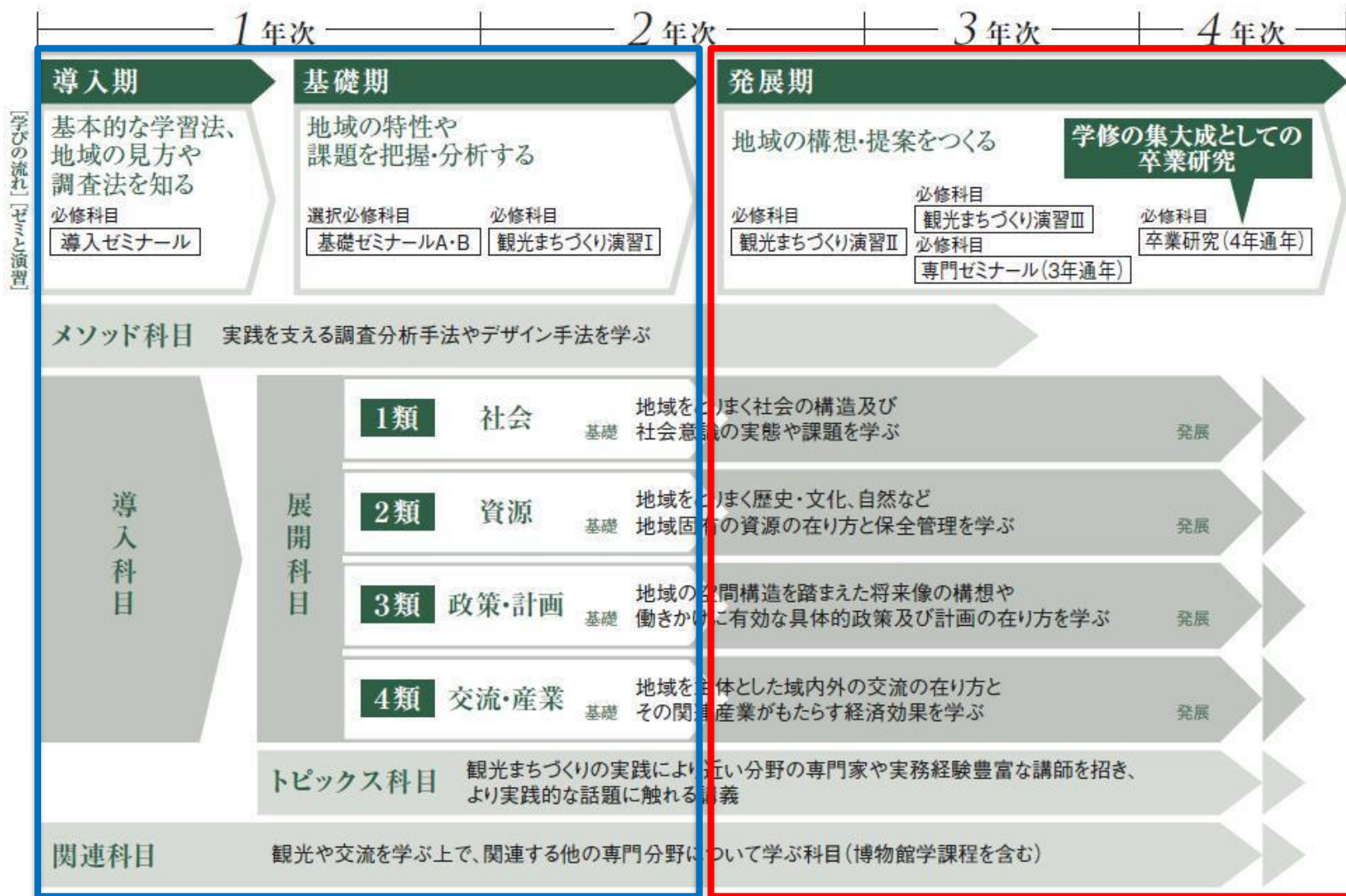


演習科目とメソッド科目で
地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力



導入科目から展開科目で
社会、資源、政策・計画、交流・産業、に関する知識・技能を身につける

観光まちづくり学部のカリキュラム



導入期・基礎期

多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。

発展期

学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。

科目区分



導入科目

メソッド科目

演習科目

展開科目 基礎／発展

- ・ I 類 (社会)
- ・ II 類 (資源)
- ・ III 類 (政策・計画)
- ・ IV 類 (交流・産業)

トピックス科目

関連科目

科目区分ごとの開講科目を履修要綱P149-150で確認してください

カリキュラムの構成と履修方法

科目区分			所要単位数	備考
導入科目		必修	2 科目 4 単位	
メソッド科目		必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
演習		必修	6 科目 18 単位	
		選択必修	1 科目 2 単位	
展開科目	基礎Ⅰ類（社会）	選択必修	2 科目 4 単位	左記の条件を満たした上で、 ・基礎Ⅰ～Ⅳ類で、13 科目 26 単位を修得すること。 ・展開科目全体で 22 科目 44 単位以上を修得すること。
	基礎Ⅱ類（資源）	必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
	基礎Ⅲ類（政策・計画）	必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
	基礎Ⅳ類（交流・産業）	必修	1 科目 2 単位	
		選択必修	2 科目 4 単位	
	発展Ⅰ～Ⅳ類	選択必修	6 科目 12 単位	
トピックス科目		選択		
関連科目		選択		
計			74 単位	

卒業に必要な
科目・単位数

必修科目

科目区分	科目名
導入科目	まちづくりと観光、社会学概論
メソッド科目	社会調査法入門
演習科目	導入ゼミナール 観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ 専門ゼミナール、卒業研究
展開科目	地域資源論 公共政策概論 観光学概論

マーカーで塗りつぶす

以上の科目を必ず修得すること

選択必修科目 メソッド科目

開講年次	科目名
1年次	プログラミングと数学基礎 統計分析の基礎
2年次	パブリックデザイン（地域と公共空間） パブリックデザイン（地域と杉） データサイエンス 質的調査法
3年次	多変量解析 地理空間情報分析

マークで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 演習科目

開講年次	科目名
1年次	基礎ゼミナールA
2年次	基礎ゼミナールB

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、1科目2単位以上を修得すること

基礎ゼミナールAとBの履修に関する説明会を6月に開催するので、必ず出席して、指示にしたがって履修を検討すること。

選択必修科目 展開科目 基礎1類

開講年次	科目名
1年次	文化社会学 コミュニケーション論
2年次	地域と環境の社会学 グローバリゼーション論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅱ類

開講年次	科目名
1年次	博物館概論
2年次	都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅲ類

開講年次	科目名
2年次	地方自治概論 国土・都市計画論 地域デザイン論 都市と地域の交通

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

選択必修科目 展開科目 基礎Ⅳ類

開講年次	科目名
1年次	観光マーケティング
2年次	観光政策・計画論 観光事業論

マーカで大きく丸で囲む

以上の科目から、2科目4単位以上を修得すること

展開科目

さらに…

- 基礎Ⅰ～Ⅳ類より、必修科目、選択必修科目を含め、13科目26単位を修得すること
- 発展Ⅰ～Ⅳ類より、6科目12単位以上を修得すること
- 展開科目全体で22科目44単位以上を修得すること

マーカで大きく丸で囲む

履修登録や成績発表の際に、修得単位数を必ず確認して、
卒業要件を満たすように学修を進めること

※履修条件

共通教育科目「経済理論入門」（1年・前期）



専門教育科目「地域と都市の経済」（2年・後期）

「地域と都市の経済」は、「経済理論入門」の単位修得が履修条件となる。

マーカーで塗りつぶす

※履修条件

専門教育科目

「プログラミングと数学基礎」（1年・後期）



「データサイエンス」（2年・後期）

「データサイエンス」は、「プログラミングと数学基礎」を事前に履修することが望まれる科目です。

履修要綱に書き込む

1年前期の時間割(必修・選択必修の指定履修科目)

	月	火	水	木	金	土
1限	英語 I 1限か2限いずれかで クラス指定		コリア語 I	導入ゼミ 木曜コース ※木か金のいずれか	導入ゼミ 金曜コース ※木か金のいずれか	
2限	英語 I 1限か2限いずれかで クラス指定		コリア語 I フランス語 I			
3限	まちづくりと 観光	中国語 I スペイン語 I ドイツ語 I	中国語 I フランス語 I	社会学概論		
4限		中国語 I スペイン語 I ドイツ語 I	中国語 I	社会調査法 入門	フランス語 I コリア語 I	
5限				ドイツ語 I 中国語 I	コリア語 I	
オンデマンド		神道と文化				

※第二外国語はいずれか1コマでクラス指定される

事前・事後学修

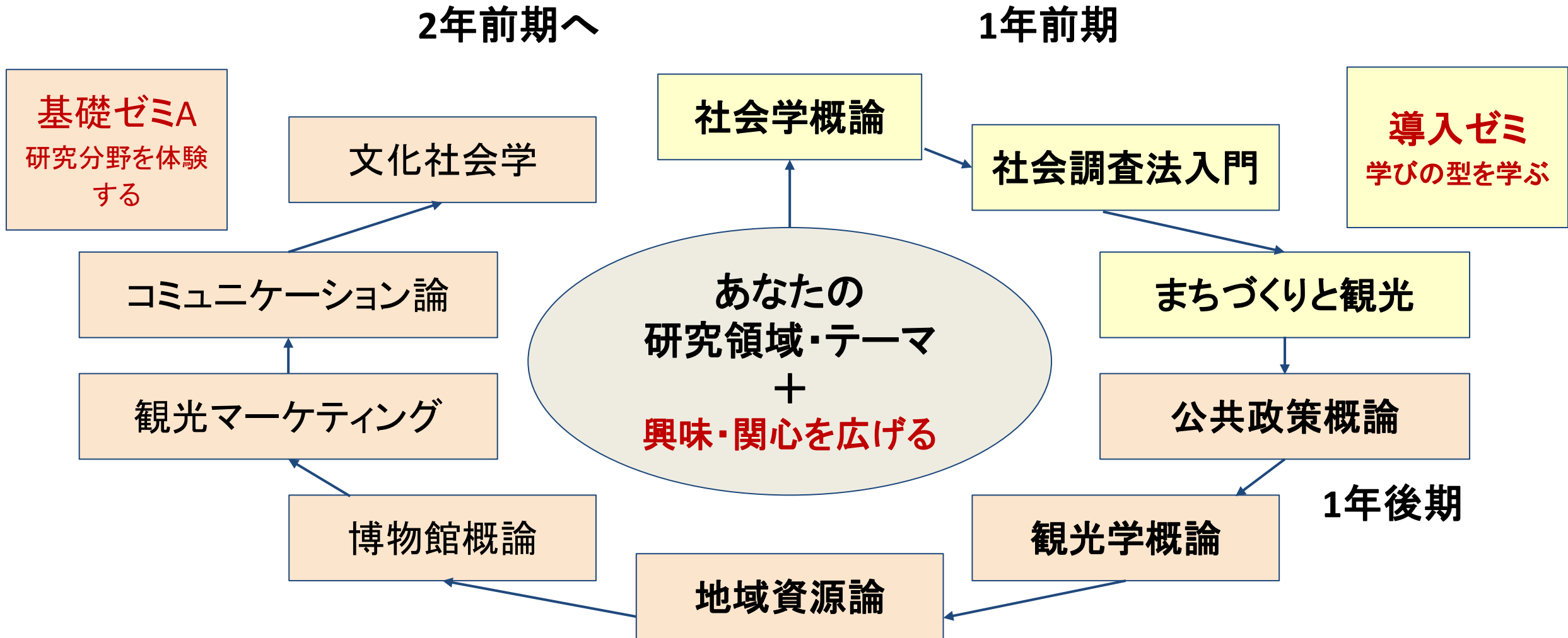
✓ シラバスには必ず事前・事後学修が示されている

(例)社会学概論 前期・木曜3限(導入科目 必修)

授業計画	
第1回	導入、社会学への招待①(社会問題と社会学)(松本・河・潘) 【事前学修 120分】 ⇒事前にシラバスをよく読んでおくこと。インターネットや図書館等を利用して、社会学についての情報を集めておくこと。 【事後学修 120分】 ⇒ノートをよく確認し授業内容の定着を図ること。授業中に興味をもった内容について、参考文献や授業中に紹介された文献等で詳しく調べてみること。
第2回	社会学への招待②(文化表象と社会学)(松本・河・潘) 【事前学修 120分】 ⇒前回の資料をよく読んで参加すること。 【事後学修 120分】 ⇒ノートをよく確認し授業内容の定着を図ること。授業中に興味をもった内容について、参考文献や授業中に紹介された文献等で詳しく調べてみること。

観光まちづくり学部の特長

※太字は必修科目



卒業要件と進級条件

【卒業のために必要な単位数】

本学に4年（8学期）以上在学し、所定の単位を修得すれば卒業と認定し、学士（観光まちづくり）の学位が授与される。ただし、1～4年の各年次に1学期以上在学することが必要である。卒業に要する単位数は下表のとおりである。

共通教育科目	26 単位以上
専門教育科目	74 単位以上
合計	124 単位以上※1

※1 共通教育科目、専門教育科目から上表のとおり単位を修得し、合計 124 単位以上修得すること。

【進級条件】

進級の時期は各年度の初めとする。進級するには、各年次において学期以上在学することが必要である。ただし、**2年次から3年次への進級には、2年次終了までに3学期以上在学し、卒業に要する単位で34単位以上を修得していなければならない。**

1年前期で履修できるのは23単位まで(CAP制)

第3節 履修登録上の留意点

年次別履修単位制限 (CAP制)

単位制の基準に基づき、次表のとおり、1年間に登録できる履修単位数が年次別に制限されています。この枠を超えて履修することはできませんので、注意してください。

文・法・経済・神道文化・観光まちづくり学部

年 次	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
単位数	42 (前期 23 単位)	42	42	48

必修・選択必修の指定履修: 7コマ**14単位**(21コマ分の事前・事後学修)

+

選択科目の履修:**9単位**まで履修登録可能(必ず上限いっぱい取る必要はない)

※単位を落とすとGPAが低くなり、修学指導面談対象になったり3年次の専門ゼミの選択に影響を及ぼすことがあります。

履修モデル(学部ガイドブックpp19-25)

履修モデル

観光まちづくり学部では、観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とした上で、学生の興味・関心や希望する進路に応じた履修が組めるように、以下の6つの履修モデルを作成しています。

これは、いずれかに合致させなければならないということではありません。ひとり一人の学生が、自身の興味・関心や進路を視野に入れて、主体的に科目を選択することが、なによりも大切です。

履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生 p.20

履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生 p.21

履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生 p.22

履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生 p.23

履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生 p.24

履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生 p.25

社会や生活の調査・分析から 観光まちづくりを学びたい学生

- 地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- 展開科目Ⅰ類（社会）、メソッド科目、展開科目Ⅲ類（政策・計画）を積極的に履修します。

【進路】

公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、
商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材

歴史・文化の保存と活用から 観光まちづくりを学びたい学生

- 歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- 展開科目Ⅱ類（資源）の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。

【進路】

歴史・文化の保存と活用に関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、

歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、

歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、

上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材

自然・環境の保護と利用から 観光まちづくりを学びたい学生

- 自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます
- 展開科目からⅡ類（資源）の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、関連科目も履修します

【想定される進路】

自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、

自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、

上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材

公共政策から 観光まちづくりを学びたい学生

- 展開科目Ⅲ類（政策・計画）の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- 特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方も兼ね備えていきます。

【進路】

公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員

出版、放送、広告の分野で活躍する人材

空間づくり・計画づくりから 観光まちづくりを学びたい学生

- 空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。
- メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、展開科目Ⅱ類（資源）とⅢ類（政策・計画）の科目、関連科目も履修します。2年次以降、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方を兼ね備えていきます。

【進路】

宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野

観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材

観光関連産業での事業・経営から 観光まちづくりを学びたい学生

- 展開科目Ⅳ類（交流・産業）の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。
- １年次からトピックス科目を履修し、実務的なものの見方を兼ね備えていきます。２年次には関連科目も履修します。

【進路】

宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材

履修モデルを参考にする際の注意

- 履修モデルは、あくまで一例を示したものです。そっくりそのまま履修するのではなく、**自ら主体的に考えて**、自らの興味や関心、目指す進路に応じた科目を履修する。
- 「まちづくりと観光」「社会学概論」「社会調査法入門」「導入ゼミナール」で、**自らの興味や関心を掘り下げ**、進路について考え、1年後期以降の履修を計画する。

その他のお知らせ

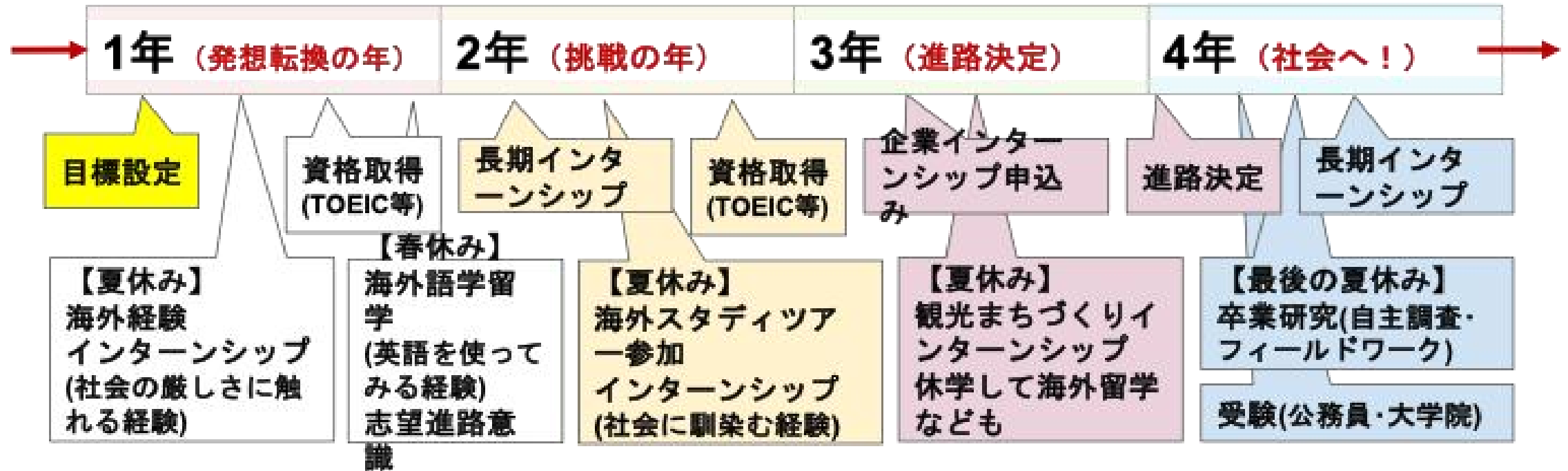
◆博物館学芸員課程

観光まちづくり学部では、自治体や博物館の専門職である「学芸員」の資格取得ができます。取得のためには、卒業に必要な124単位のほかに、専門課程19単位を取得する必要があります。**興味・関心のある方は、4月3日「博物館学芸員課程ガイダンス」に必ず出席してください。**

◆PCAP／副専攻プログラム／全学オープン科目（渋谷キャンパス開講）

PCAP（パブリックサービスキャリアコース）は、公務員受験に必要な科目24単位を学ぶコースで、1年次にコース登録します。興味・関心ある方は、4月1日に発信されるK-SMAPYⅡ「お知らせ」を参照し、4月1日～19日に視聴できるオンライン説明会に参加してください。1～3年次に渋谷開講科目24単位の取得が必要で、通学時間や交通費を考慮に入れ、強い意思を持って臨み、充分慎重に検討してください。その他、渋谷開講科目の取得もできますが、同様に充分慎重に検討してください。（履修要綱参照）

大学4年間の授業以外の活動も意識しよう



【このような時はルーム教員や学生相談室へ】

- 無気力。やる気がでない。目標喪失。スマホ依存。
 - 朝起きられない。コミュニケーションが苦手。
- ⇒社会は多様。個性を尊重。自分を乗り越えよう！

◆アルバイトはご家庭とよく相談して

- ・年収103万円を超えると扶養控除から外れ、世帯主に所得税がかかります。
- ・深夜バイトは大学生活に悪影響を及ぼし、修学指導面談につながる可能性があります。

おさらい

- 履修要綱をよく確認する。
- シラバスをよく読む。授業内容、成績評価や授業実施形態を確認する。
- 必修科目の登録を確認する。
- 自らの興味や関心、目指すべき進路を考えて、履修モデルやカリキュラムツリーを参考に、履修科目を選択する。
- **【重要】** 大学からのお知らせは、K-SMAPY II（Outlookにメール送信もされます）および学部からのお知らせは、Teams各チームのチャットで通知されます。必ず、PCおよびスマホにアプリを入れ、通知をオンにしておくこと。通知見逃しのフォローはされません。

悩んだときは…

履修相談会に参加する

観光まちづくり学部の先輩や教員が相談に乗ります！

<履修相談会>

2025年 4月 4日(金) 13:00～16:00

会場 若木21 1F 多目的ホール&6101

教員に相談する

前期「導入ゼミナール」では

1年後期以降の履修科目について考える機会を設けます。

まずは、自ら考えてみて

- 「導入ゼミナール」の担当教員（＝ルーム担当教員）に相談しましょう
- 各科目の担当教員に直接話を聞いてみましょう

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

Copyright (c) Kokugakuin University. All Rights Reserved.

渋谷キャンパス

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

たまプラーザキャンパス

〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1

時間割作成上の 注意事項

観光まちづくり学部 観光まちづくり学科

1年生

1. 指定科目

以下の科目は指定科目のため、すでに登録されています。K-SMAPYⅡ『学生時間割表』で曜日・時限・担当教員を確認し、受講してください。なお、指定科目の登録削除は一切できません。

【前期】「社会学概論」／「まちづくりと観光」／「社会調査法入門」／「導入ゼミナール」

【後期】「基礎ゼミナールA」※／「地域資源論」／「公共政策概論」／「観光学概論」

※「基礎ゼミナールA」は履修を希望し、履修が決定した者が対象。

2. 「基礎ゼミナールA」「基礎ゼミナールB」

「基礎ゼミナールA」／「基礎ゼミナールB」は1科目2単位の選択必修科目です。1年次後期には「基礎ゼミナールA」が開講されます。「基礎ゼミナールA」「基礎ゼミナールB」とともに令和7年度前期中に説明会を実施します。Teamsで改めてお知らせをしますので、お知らせが届いた際に詳細を確認してください。希望調査で定員を超えたゼミナールに関しては、抽選となることがあります。

「基礎ゼミナールA」…令和7年度後期開講(夏季休暇中を含むゼミもあり)

「基礎ゼミナールB」…令和8年度前期開講(春季休暇中を含むゼミもあり)

3. 「プログラミングと数学基礎」

「プログラミングと数学基礎」は、メソッド科目の選択必修科目です。2年次以降に同じくメソッド科目である「データサイエンス」(2年次後期開講)の履修を検討している学生は、「プログラミングと数学基礎」の履修を推奨します。「データサイエンス」では、「プログラミングと数学基礎」で学んだ内容・得たスキルを前提として講義が進められます。

4. 個人用パソコン(ノート型)の持参を推奨する科目

本学部では、授業中に個人用パソコンを利用する科目が多数あります。特に以下の科目は、授業時に個人用パソコンを持参することが望ましい科目です。選択必修科目に指定された科目については、この条件に注意して、受講してください。なお、個人用パソコンを所有していない場合は、CP教室内のパソコンなどを利用してください。

【前期】「導入ゼミナール」(必修科目)

【後期】「基礎ゼミナールA」※／「プログラミングと数学基礎」／「統計分析の基礎」(いずれも選択必修科目)

※「基礎ゼミナールA」は担当教員により、異なります。

卒業認定・学位授与方針 教育課程の編成・実施方針

卒業認定・学位授与方針（P59）

A 知識・技能

B 思考力・判断力・表現力

C 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度



これらを満たすために…

教育課程の編成・実施方針（P60）

科目区分とほぼ対応した6項目

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

科目区分		卒業認定・学位授与方針（DP）					
		知識・技能			思考力・判断力・表現力		主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度
		A1	A2	A3	B1	B2	C1 C2
導入科目		◎					
メソッド科目				◎		◎	
演習科目	導入期					○	○
	基礎期	○		○		○	○
	発展期			○	◎	◎	◎ ○
展開科目 基礎	I 類	◎	○				
	II 類	◎	○				
	III 類	◎	◎				
	IV 類	◎	◎				
展開科目 発展	I 類	◎	◎				
	II 類		◎				
	III 類		◎				
	IV 類		◎				
トピックス科目			◎		○	○	○ ◎
関連科目		◎					

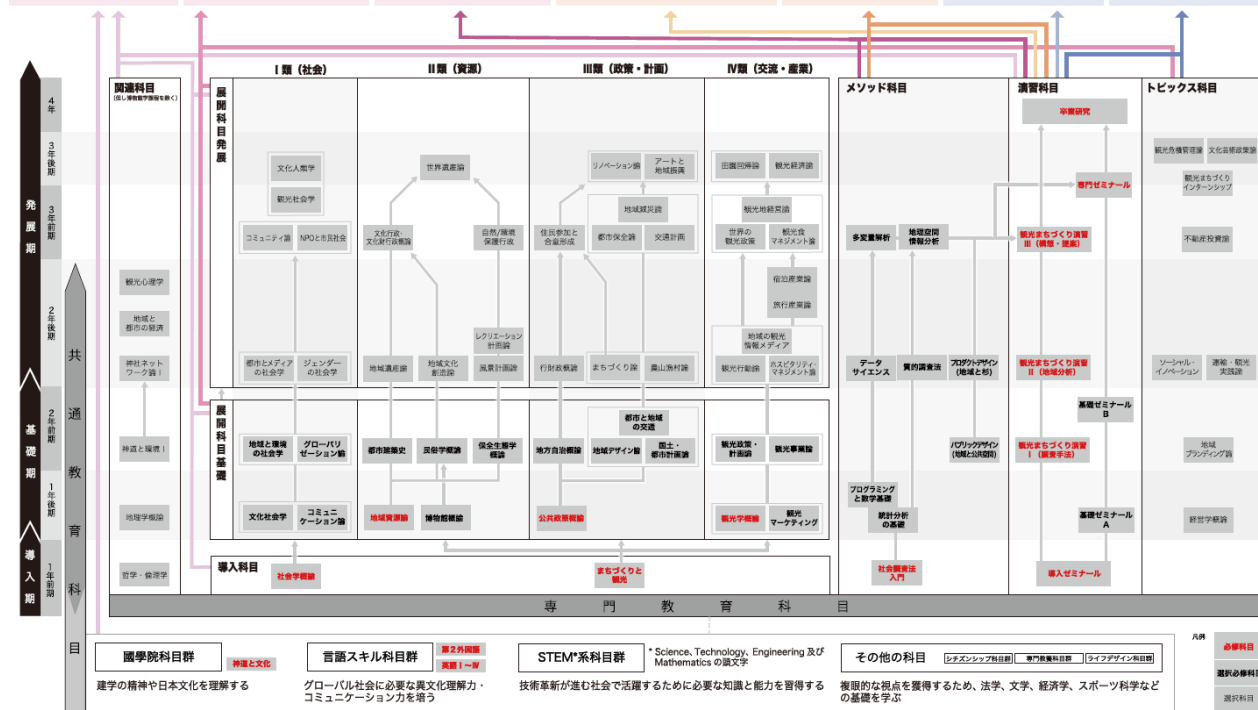
カリキュラムツリー

科目同士の関連関係が示されています。

國學院大学 観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 カリキュラムツリー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

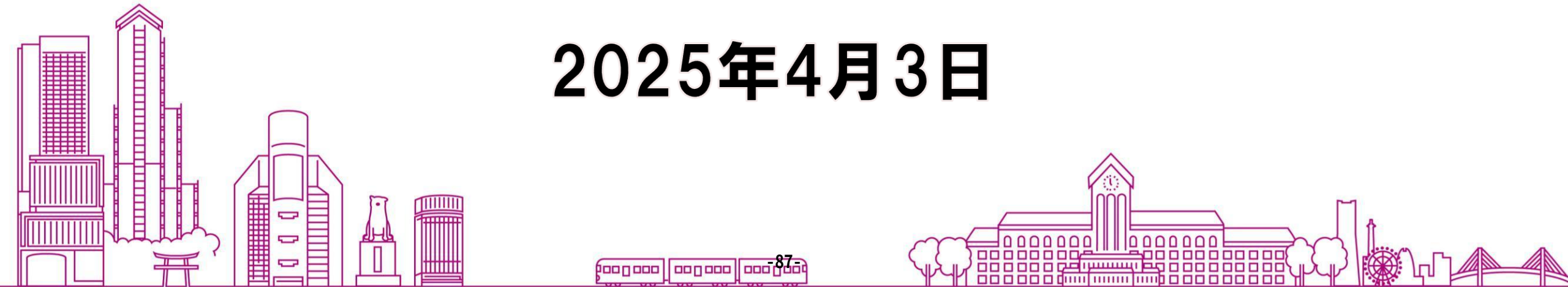
A 知識・技能		B 思考力・表現力・判断力		C 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
DP-A1 多様な現代社会を理解する深い教養を身に付け、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。	DP-A2 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の課題、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。	DP-A3 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。	DP-B1 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べることができる。	DP-B2 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。	DP-C1 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。



特に興味・関心のある科目については、関連のある科目を確認して、履修するかどうか、検討してください。

令和7年度配属に向けた 専門ゼミナール・ガイダンス

2025年4月3日



履修登録の手引き

- ・「令和8年度専門ゼミナール履修登録の手引き」が今年の秋に公開予定
- ・専門ゼミの履修登録については、この手引きに詳細に記載しているため、公開されたら、熟読してください

見本：令和7年度専門ゼミナール履修登録の手引き

N ²⁰²⁴ 年度専門ゼミナール 履修登録の手引き N ²⁰²⁴ 年10月23日 國學院大學観光まちづくり学部	
目次	
〰 N ²⁰²⁵ 年度専門ゼミナールについて	1
1-1 基礎情報	
1-2 観光まちづくり学部における学びの位置づけと卒業研究「4年次」との関係性	
〰 履修登録における留意事項	2
〰 履修登録の流れ	3
3-1 全体カレンダー	
3-2 専門ゼミガイダンス	
3-3 専門ゼミ・卒業研究ゼミ・マシト	
3-4 オープンゼミ	
3-5 個別相談	
3-6 希望状況調査	
3-7 募集・配属の決定・履修登録	
3-8 履修登録までの諸事項の連絡	
＜別表＞ オープンゼミ A・B週教員担当割	8
＜様式＞ 専門ゼミ・卒業研究ゼミ・マシト	10
〰 参考用シラバス	12
4-1 2024年度専門ゼミシラバス	
4-2 卒業研究シラバス（暫定）	
〰 ゼミ内容紹介	20



(1) 2025 年度専門ゼミナールについて

1-1 基礎情報

- ① 科目: 専門ゼミナール 3年次必修
- ② 開講: 通年(授業数全30回)
- ③ 単位: 2単位
- ④ 曜日・時間: 金曜日の3限(13時05分～14時35分)又は4限(14時50分～16時20分)のどちらかとなる予定です。後日、シラバス等で確認をしてください。
- また、一部を休日や長期休暇等を実施するゼミもありますので、「(5)ゼミ内容紹介」をよく確認してください。

1-2 観光まちづくり学部における学びの位置づけと卒業研究(4年次)との関係性

- ① 3年次の「専門ゼミナール」(以下、「専門ゼミ」という)及び4年次の「卒業研究」は、観光まちづくり学部における学びの集大成となります。
- ② 具体的には、学生一人ひとりの興味・関心を地域や社会の課題と結び付けながら、観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に寄与する具体的な研究課題を設定し、オリジナリティのあるひとつの研究としてまとめます。
- ③ 3年次の専門ゼミでは、学生自身の興味・関心に応じてゼミを選択し、指導教員や他の学生とディスカッションを重ねながら、主体的な研究に取り組みます。
- ④ 4年次の卒業研究では、その研究をさらに深め、指導教員と相談の上、成果を論文、計画、制作のいずれかの形式でまとめます。
- ⑤ 継続的な学修と研究を遂行するため、3年次の専門ゼミと4年次の卒業研究は、原則として同一教員から指導を受けることとなります。

3年次必修です 通年です

決定まで金曜日午後は
空けておいてください

学外授業があるゼミもあります
学びの集大成に入っていきます

自分の興味や関心は、
見つかりましたか？

3年次の専門ゼミと 4年次の卒業研究はセットです

同一教員から2年間指導を受けます

主体的に研究に取り組めるよう、
自分の関心に合ったゼミを見つけて
ください

(2) 履修登録における留意事項

- ① 専門ゼミは、2 年次終了時点で卒業に要する単位を 34 単位以上取得する等し、第 3 学年に進級した学生が履修できる科目です。

【参考】進級条件

進級の時期は各年度の初めとする。進級するには、各年次において 1 学期以上在学することが必要である。ただし、2 年次から 3 年次への進級には、2 年次終了までに 3 学期以上在学し、卒業に要する単位で 34 単位以上を修得していなければならない。

※「令和 5 年度履修要綱」における第 3 章第 6 章「観光まちづくり学部」より抜粋

- ② 決められた募集及び登録期間を逃すと履修ができなくなります。「(3) 履修登録の流れ」を良く読み、遺漏や遅延のないよう手続きをしてください。
- ③ 一つのゼミの人数は 11～12 名を基本とし、志望動機及び GPA (2 年次後期まで) を総合的に判断して配属を決定します。自分の関心のある分野や研究テーマを的確に説明できるよう、早めの準備を心がけてください。また、希望するゼミの教員には、第 1 希望に限らず、積極的に個別相談をお願いしてください。
- ④ 希望に応じてゼミが決定された後は、辞退したり、別のゼミに応募し直すことはできません。また、前述のように、専門ゼミと卒業研究は、原則として同一教員から指導を受けることとなります。「(4) 参考用シラバス」及び「(5) ゼミ内容紹介」をよく読むと共に、オープンゼミや個別説明会を積極的に活用し、履修登録準備にあたってください。
- ⑤ ゼミの活動内容は様々です。学外授業の実施等により開講スケジュールや負担する経費も異なります。ゼミに参加する上で、健康上や経済上等の心配や不安がある場合には、ルーム担当 (1 年次導入ゼミ担当、以下同じ) の教員に相談をしてください。
- ⑥ 3 年次に留学や休学を検討している場合には、ルーム担当の教員にその旨を伝えてください。

3 年に進級すると履修できます

進級条件をしっかりと確認し、34 単位以上を修得してください。

登録をしないと履修ができません。

遅れたり、忘れたりしないように気を付けましょう。

各ゼミに約 12 名の配属となります。

希望者多数の場合は、志望動機と 2 年次後期までの GPA で判断して決めます。

オープンゼミや個別面談を積極的に受けてください。

個別面談を重視する教員もいます。

ゼミ内容紹介では、スケジュールや経費も確認してください。

留学や休学を考えている時には、導入ゼミの時のルーム担当に伝えてください。

履修登録の流れ(昨年度の場合) 令和7年度も同様の予定

ガイダンス(10月23日)

オープンゼミ(11月13日～21日の所定の日)・・・松本先生から説明

個別相談(11月22日～12月6日の期間でアポ)・・・松本先生から説明

希望状況調査(12月9日～15日)・・・以下、大門先生から説明

希望状況調査の結果発表(12月下旬頃)

第1次募集(1月7日～13日)⇒3月中旬頃発表⇒決定者自動登録

第2次募集(R7年度第一次履修登録期間)⇒4月中旬頃発表⇒自動登録

授業計画 (昨年度の例)

・手引きの中に全教員の授業計画が記載されているので、熟読して希望するゼミを検討してください

授業計画（令和7年度専門ゼミナール）様式

（1）専門ゼミナールの内容について

担当教員	浅野 聡	専 門	都市計画学（景観計画、歴史的環境保全計画、歴史的建築物保存活用計画、都市・建築史、防災・復興まちづくり）
授業のテーマ	日本は自然環境と歴史的環境に恵まれており多様な観光資源を有しているが、同時に大規模自然災害等が多いことから、観光地における危機管理の必要性が強く求められている。浅野ゼミでは、以下の2つの視点から捉えた歴史都市の観光・防災まちづくりの過去・現状・未来について研究する。 （1）視点1：日常時の歴史都市の観光まちづくりの計画・実践 （2）視点2：災害時の歴史都市の防災・復興まちづくりの計画・実践		
授業の内容	授業のテーマに沿って、歴史都市の観光地を対象にして、以下の内容に関わる調査研究に取り組む。 （1）日常時の観光まちづくり：観光地の形成史、観光資源（歴史的建築物・町並み・史跡等）の継承・活用方法、関連計画（景観計画・歴史まちづくり計画等）の策定状況、観光資源を活かした観光まちづくりの過去・現状・未来、等について専門知識を得るとともに特徴や課題を考察する。 （2）災害時の防災・復興まちづくり：近世から現代における自然災害史、防災・復興まちづくりの計画史、観光地防災への取り組み状況（地域防災計画・ハザードマップ・観光危機管理計画等）、今後の観光地防災のあり方、等について専門知識を得るとともに特徴や課題を考察する。 授業の進め方は、①専門書・論文等の輪読と発表（全員で共通の専門書等を輪読する場合と各自で選択する場合の両者あり）、②首都圏内の歴史都市の観光地や博物館、防災センター等を対象にした現地調査（日帰りの学外授業）、③卒業研究の研究計画案に関する討論と発表、から成る。   防災と観光を組み合わせた新しい震災復興まちづくり 熊本地震震災ミュージアム -記憶の回廊- 防災と景観を組み合わせた新しい震災復興まちづくり 迎（ムカエル）創（ウマレル）宮城県気仙沼市		
専門ゼミの到達目標	2つの視点をバランスよく踏まえて、歴史都市の観光まちづくりの過去・現在・未来に関する専門知識を身につけるとともに、調査研究を通じて四年次の卒業研究の研究計画案を作成する。		

教科書、参考文献、受講に関するアドバイス等	【教科書】 授業において適宜紹介する。
	【参考文献】 授業において適宜紹介する。
	【受講に関するアドバイス等】 「都市建築史」（二年次）を履修済みであるとともに、「地域減災論」（三年次）を履修することが望ましい。また本授業のテーマに関する他の授業科目も積極的に履修しておくことが望ましい。 - 学外授業にも積極的に参加するとともに、現地調査等では複数名で協力して取り組むこともあるため、ゼミ生同士の良好なコミュニケーション（チームワーク）の形成に努めてほしい。

（2）専門ゼミの実施について

学 外 授 業 の 予 定 ※三年次～ 四年次、 二年間を通 し 現時点の 見込み	有無	[○] 有り [] 無し	
	実施場所	[○] 国内	[] 海外
	実施時期	[○] 夏休み [○] 休日 [] 冬休み [] その他 ()	
	旅程・回数	[○] 日帰り (3～4回)	[○] 宿泊 (1回)
	費用概算	三年次「専門ゼミナール」一年間通して学生一人当たり総額 <u>20,000</u> 円程度	
		四年次「卒業研究」一年間通して学生一人当たり総額 <u>未定</u> 円程度	
	(具体的に記載) ・ 三年次には日帰りで訪問することが可能な首都圏内の歴史都市等を対象とする予定である。具体的には、①首都圏内の歴史都市の観光資源（歴史的建築物や町並み）、②都市・建築の歴史を解説している博物館（国立歴史民俗博物館、江戸東京博物館等）、③過去の自然災害や防災まちづくり教育について解説している防災センター（東京臨海広域防災公園、東京都復興記念館等）、等である。 ・ 四年次には、ゼミ生と相談の上、①（首都圏外を対象に）日本の旅行の原点と言える伊勢参り（伊勢神宮等）、②卒業研究のテーマに関わりのある歴史都市の観光地、等の訪問を検討したい。		

オープンゼミの開催日時(昨年度)

『手引き』5頁参照

表:オープンゼミの実施における奇数 G、偶数 G の割り当て日

11月	月	火	水	木	金	土
第3週 A 週担当教員			13 日 奇数 G		15 日 偶数 G	
第4週 B 週担当教員			20 日 偶数 G	21 日 奇数 G		
11 月 13 日(水): ①17:00~17:20、②17:35~17:55、③18:10~18:30 上 記 以 外: ①16:35~16:55、②17:10~17:30、③17:45~18:05 各回の間の15分で速やかに移動してください。						

【原則として】

- 学籍番号が**奇数**の場合、上の表で**緑**に着色されている日に参加する
- 学籍番号が**偶数**の場合、上の表で**オレンジ**に着色されている日に参加する

各開催日の担当教員(昨年度)

分類	教員氏名(開催場所となる演習室) 主たる専門	A 週		B 週	
		13 日 (水)	15 日 (金)	20 日 (水)	21 日 (木)
I 類 社会	潘 夢斐 (6406) 文化社会学、ミュージアム・スタディーズ	●	●		
	河見 珍 (6405) 社会学、コミュニケーション、パブリック・リレーションズ			●	●
	松本 貴文 (6305) 農村社会学、地域社会学	●	●		
	吉見 俊哉 (4階ラウンジ・スタジオ5) 社会学、都市論、メディア論			●	●
II 類 資源	石垣 悟 (6409) 民俗学、文化財の保存・活用、博物館活動	●	●		
	小林 稔 (6310) 民俗学、文化財保護論			●	●
	下間 久美子 (6412) 文化財保護、都市保全、文化的景観	●	●		
	下村 彰男 (6307) 風景計画学、造園学、観光レクリエーション論	●	●		
	藤岡 麻理子 (6403) 文化遺産学・歴史的環境保全			●	●
	堀木 美告 (6413) 造園学・観光計画・観光資源論			●	●
III 類 政策 計画	浅野 聡 (6414) 都市計画、景観計画、防災・復興まちづくり			●	●
	石山 千代 (6308) 地域デザイン、歴史的環境保全、観光計画	●		●	
	金 今善 (6302) 地方自治論、市民参加論、多文化共生のまちづくり	●		●	
	児玉 千絵 (6315) 都市計画、都市デザイン、ストックマネジメント	●	●		

分類	教員氏名(開催場所となる演習室) 主たる専門	A 週		B 週	
		13 日 (水)	15 日 (金)	20 日 (水)	21 日 (木)
III 類 政策 計画	椎原 晶子 (6401) 都市計画、建物保存再生、エリアアート	●	●		
	清野 隆 (6407) コミュニティデザイン、エコロジカル・デモクラシーのまちづくり			●	●
	十代 田朗 (6415) 都市・地域・国土計画、観光計画、観光地・リゾート発達史			●	●
	大門 創 (6309) 都市計画、交通計画			●	●
	楊 惠 亘 (6306) 都市デザイン、都市保全、ランドスケープデザイン	●	●		
	西村 幸夫 (3階ラウンジ・スタジオ4) 都市計画、都市保全計画、都市景観計画	●	●		
	米田 誠司 (6402) 公共政策、観光政策、食文化			●	●
IV 類 交流 産業	井門 隆夫 (6404) 宿泊産業論、観光マーケティング	●	●		
	石本 東生 (6304) 欧州の観光政策、文化観光			●	●
	梅川 智也 (6301) 観光地経営、観光計画、観光政策	●	●		
	小林 裕和 (6312) 観光学、観光イノベーション、観光 DX、持続可能性			●	●
	塩谷 英生 (6314) 経済学・統計学・市場分析			●	●
	嵩 和雄 (6303) 地域計画、都市農村交流、移住・定住			●	●
メソッド	仲野 潤一 (6410) AR/VR 等インタラクティブメディア、情報観光行動論	●		●	
	南雲 勝志 (6313) 公共空間に於けるパブリックデザイン、杉の活用と地域づくり	●	●		

- 表で緑に着色されている教員は第3週に開催
- 表でオレンジに着色されている教員は第4週に開催
- 表で黄色に着色されている教員は第3週・第4週の水曜日に開催

『手引き』6～7頁参照

当日の流れ(昨年度)

13日:17:00 ~ 17:20 それ以外 16:35 ~ 16:55	第1回 (20分)
13日:17:20 ~ 17:35 それ以外 16:55 ~ 17:10	移動 (15分)
13日:17:35 ~ 17:55 それ以外 17:10 ~ 17:30	第2回 (20分)
13日:17:55 ~ 18:10 それ以外 17:30 ~ 17:45	移動 (15分)
13日:18:10 ~ 18:30 それ以外 17:45 ~ 18:05	第3回 (20分)

どの回も**予約不要**。ただし、人数過多で演習室の定員を超えた場合、次の回への参加をお願いする可能性有

**研究テーマシートを
忘れずに持参・提出しよう**

個別相談

- 個別の説明や相談を希望する場合、**個別相談**を申し込むことができる。
学生の側から教員に**teamsのチャット**で直接連絡を取り、実施方法や日時を決める
- 期間は**11月22日(金)から12月6日(金)の間の平日**
- 一部のゼミについては**個別相談期間に面談の実施を強く推奨している**ので、該当するゼミを希望する場合は注意すること

昨年度の専門ゼミ配属結果(1次募集)

- 専門ゼミの定員:1つのゼミあたり12名を基本(令和7年度は未定)
- 希望状況調査:特定のゼミに希望が集中
 - ↓
- 調査結果を公開して、申請者全員が希望状況を把握
 - ↓
- 自分の希望が通るように、できるだけ分散して希望を出すように申請者全員に連絡
 - ↓
- 申請者が自主的に再考して、1次募集にて希望を申請
 - ↓
- 配属結果:多くの学生が希望通りに配属される結果へ
- 1次募集で未配属の学生は、2次募集で配属される予定

昨年度の専門ゼミ配属結果(1次募集)

【参考】

	令和5年度の配属結果	令和6年度の配属結果
第1希望	81%	80%
第2希望	5%	9%
第3希望	3%	3%
1次募集の合計	※第1～5希望の合計 91%	※第1～7希望の合計 95%

【注意】

- ・12月の希望状況調査では、特定のゼミに希望が集中するため、この調査結果を公表します。
- ・この調査結果を確認の上、希望するゼミを自主的に再考して、1次募集にて希望を申請してください。

おわりに

- 様々な授業の履修を通じて、**関心のある研究テーマ(及び進路)について考えることを習慣化**してください
- ゼミの配属**は、**志望動機とGPA(2年生後期まで)によって総合的に判断**されるため、履修した科目をしっかりと学習してください
- 専門ゼミを履修するためには、**必ず3年生に進級**をしてください
- 3年生に進級できなかった場合**は、**専門ゼミの配属の対象外**となるため注意してください
- 希望するゼミを申請する際に必要とされる条件(例:ゼミを担当する教員の授業(選択科目)の履修等)は、特にありません
- 2年生あるいは3年生の時に留学や休学を検討している場合**は、**ルーム担当教員に早めに相談**してください

國學院大學観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会規程

(目的)

第1条 國學院大學観光まちづくり学部における学部運営の点検評価及び改善に関する提言、並びに地域マネジメント研究センターの運営に関する提言、及び地域・社会への貢献を組織的に行うために観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会（以下「本委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 本委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 外部委員 3名以内
- (2) 学部長
- (3) 副学部長
- (4) 地域マネジメント研究センター長
- (5) 地域マネジメント研究センター副センター長
- (6) 教務担当教員
- (7) 入試担当教員
- (8) 事務課員

2 本委員会の委員長は、観光まちづくり学部長とする。

3 本委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 外部委員の選出にあたっては、教授会の承認を得るものとする。

5 本委員会の幹事は、副学部長とする。

6 本委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求めることができる。

(委員会)

第3条 本委員会は、委員長が招集し、議長となる。委員長に事故あるときは、予め指名された委員が議長となる。

2 本委員会は、原則として毎年度1回開催する。なお、委員長が必要と認めたときは臨時に委員会を招集することができる。

(活動)

第4条 本委員会は、第1条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 学部運営の点検・評価
- (2) 学部運営の改善に関する提言
- (3) 地域マネジメント研究センターの運営に関する助言
- (4) 地域、並びに外部機関との連携推進に関する助言・提言

(改廃)

第5条 この規程の改廃は、本委員会の議を経て、観光まちづくり学部教授会の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、令和5年3月10日から施行する。

令和6年度諸委員会出席台帳

観光まちづくり学部教務委員長 井門 隆夫

観光まちづくり学部 教務委員会			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
		開催日	4月10日	4月24日	5月22日	6月5日	6月19日	7月3日	7月17日	9月18日	10月2日	10月30日	11月20日	12月11日	1月8日	2月5日	3月3日	3月26日	出席回数
1	井門 隆夫	出席: 委員会出席 ×: 召集された が欠席 ―: 召集対象外	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	16回
2	金 今善		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	16回
3	児玉千絵		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	16回
4	十代田朗		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	×	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	15回
5	清野 隆		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	16回
6	潘 夢斐		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	16回
7	堀木 美告		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	16回
8	松本 貴文		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	16回
9	楊 恵亘		出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	×	15回
10																			
所要時間(参考)			10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	10:00～11:30	
備考			オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	オンライン (Teams) で実施	

令和6年度「FD 推進助成事業」事業報告書

標記のことに關し、以下のとおり報告いたします。

※次年度発行：國學院大學教育開発推進機構紀要に掲載いたします（取り組みレポート）

※2,000 字～3,000 字程度（図表・写真含）必要に応じてページを追加していただいて構いません。

事業名	地域における課題解決型学習（PBL）の支援に向けたスキルアップ事業
代表者名・実務担当者名	西村幸夫・松本貴文
表題	地域における課題解決型学習（PBL）の課題と対応策の検討 —「観光まちづくり演習Ⅲ」「観光まちづくりインターンシップ」の事例から—
1. はじめに 観光まちづくり学部では、令和6年度より3年次配当科目の開講が始まった。本学部の3年次開講科目には、「観光まちづくり演習Ⅲ」（以下、「演習Ⅲ」）や、「観光まちづくりインターンシップ」など、学生が地域課題を発見しその解決策を提案する課題解決型学習（PBL）を組み込んだ科目が含まれている。「地域に対する深いまなざしに基づき、地域社会の現状と課題を理解し、地域資源の保全活用と地域を動かす様々な人々の連携によって、地域を主体とした観光や交流を促すとともに、活力あふれる地域を実現できる人材を養成」（『令和6（2024）年度観光まちづくり学部ガイドブック』）するという本学部の教育目標にとって、PBLは極めて有効な手段である。その一方で、授業の運営を通して様々な課題が発生することも予想される。 そこで、令和6年度「FD推進助成事業」（以下、「本事業」）では、観光まちづくり学部の全専任教員が参加し、PBLにおける学生支援の課題整理とその対応策について検討した。具体的な事業内容としては、（1）演習Ⅲ、「観光まちづくりインターンシップ」の担当教員らによる定期的な検討会議の開催と、（2）教員が実際に地域を訪れ、地域の資源・課題を分析し構想・提案を検討するエクスカージョンの2つに取り組んだ。 2. 演習Ⅲの概要 具体的な報告に入る前に、本事業の検討対象となった演習Ⅲと「観光まちづくりインターンシップ」の概要を述べておく。 ・観光まちづくり演習Ⅲ 演習Ⅲについて、まずはカリキュラム上の位置づけから確認する。観光まちづくり学部の専門教育科目は、導入科目・メソッド科目・演習科目・展開科目・関連科目・トピックス科目の6つの科目区分から構成されており、演習科目はさらに2つの系統に分類されている。1つが各専門分野の教員による少人数教育の「ゼミナール」、もう1つがグループワークを重視した「観光まちづくり演習」である。観光まちづくり演習では、2年次前期の演習Ⅰから2年次後期の演習Ⅱを経て3年次前期の演習Ⅲまで、学生が実際の地域に提案を行うための方法を実践的・体系的に学んでいく（すべて必修科目）。このうち、演習Ⅲは、学生が演習Ⅰ・Ⅱで学んだ調査・分析手法や講義科目で学んだ知見などを総動員して、地域の課題解決につながる観光まちづくりの構想・提案を立案することを目的としている。	

次に、演習Ⅲの運意体制である。演習Ⅲは、担当教員によって組織される「演習Ⅲ運営委員会」が中心となり運営されている。対象地域ごとに5つの「スタジオ」（横浜、神田、谷中、湯河原、相模原）に分かれ、各スタジオ60人程度の学生を6名程度の教員がチームティーチングで指導する。学生たちは5～6名のグループ単位で構想・提案の立案に取り組み、最終発表会でのプレゼンテーションとポスターという2つの成果物をまとめた。

・観光まちづくりインターンシップ

「観光まちづくりインターンシップ」はトピックス科目に位置づけられており、観光まちづくりの現場にかかわるインターンシップ（夏季休業期間）と事前事後学修を行う科目である。履修人数は最大30人とし、それぞれが別の地域に約2週間滞在して実習を通して観光まちづくりの実践に触れる。最終成果として、報告会でのプレゼンテーションと報告書の作成を行った。

3. 検討会議

・観光まちづくり演習Ⅲ

演習Ⅲについては、定期的開催される「演習Ⅲ担当教員打合わせ」（以下、事業内での位置づけに対応させて「検討会議」）なかで、学生支援の課題整理や適切な対応策の検討を進めてきた。検討会議は、演習Ⅲが開講されていた前期期間中に5回、後期期間中にも3回開催した（計8回）。検討会議の議事録と「演習Ⅲ運営委員会」が実施した担当教員向けアンケート（13人が回答）の結果をもとに担当教員が感じた課題と効果的な対応策を整理すれば、以下の通りである。

課題として議論された主要なテーマは、①グループワークに関する諸課題（学生の参加意欲を高めるグループ編成法やチームワークを高める指導法など）、②授業計画と関連する諸課題（現地訪問機会の確保や地域分析と構想・提案の時間配分の考え方など）、③指導に関する諸課題（学生に文献資料の活用を促す方法や教員の指示やフィードバックを正確に伝える方法など）、④評価の方法に関する諸課題であった。

これに対する対応策として、①グループワークへの主体的参加を促す手法については、スタジオよりも小規模なユニットを編成する方法（3～4グループ程度）や、地域の側にカウンターパートを設定する方法などが挙げられた。②授業計画の効率化については、2年次に開講される演習Ⅰ・Ⅱとの接続を充実させることなどが提案された。③学生への指導については、地図の活用した指導や構想・提案に至るプロセスをブレイクダウンする方法などの案が寄せられた。④評価方法については、個別ワーク（ワークシートやレポート）を課したことが、フリーライダーの発生抑止につながったのではないかと指摘がなされた。

・観光まちづくりインターンシップ

「観光まちづくりインターンシップ」については、担当教員が毎回の授業前後に検討会議を行ってきた。本科目の指導上の課題として、①実習中の主体的な学修の支援（現場での臨機応変な行動や判断の醸成）、②事前学修の支援（実習する地域や団体・組織に関する情報収集）、③事後学修の支援（実習で得られた知見の確認と今後の学修や進路への還元）を検討し、担当教員が個別に学生との面談や指導を重ねて対応してきた。

4. エクスカーション

・エクスカーションの概要

学生たちが演習Ⅲや「観光まちづくりインターンシップ」を通して行う作業を教員も体験することを目的として、2024年12月20日～22日（2泊3日）の行程でエクスカーションを実施した。対象地域は、日本を代表する観光地であり豊かな文化資源・自然資源を有する伊勢・志摩地域（松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市）とした。参加者は合計で23人であった。

今回のエクスカーショでは、観光まちづくりに携わる様々な専門家からレクチャーを受けると同時に、専門家の案内でまち歩きなどを行った。エクスカーショの訪問先は多岐にのぼるが、松阪市では伊勢商人や国学者本居宣長の実践と松阪のまちの成り立ちとの関わりを、伊勢市では式年遷宮とまちづくりとの関係や伊勢河崎のまちなみ保全、お伊勢参りにおける御師の役割などを、鳥羽市では中心市街地におけるまちづくりの成果と課題や海の博物館の実践、観光事業者による企業防災の取り組みなどを、志摩市では伊勢・志摩国立公園の特徴や魅力などを学んだ。参加者はエクスカーショでの経験をもとに、学生たちが構想・提案を作成する過程で直面する課題やその解決策を検討した。

・エクスカーショから得られた知見——振り返りアンケートの結果から

エクスカーショ終了後、参加者を対象に振り返りアンケートを実施し、14人から回答を得た。このアンケートでは、エクスカーショを通して学生たちによる課題解決型学習への支援に関連して学んだこと・気づいたこと・考えたことなどを、自由回答形式で尋ねた。その結果をまとめれば、以下の通りである。

演習Ⅲと関連する記述としては、①演習Ⅲでは、チームティーチングを行う教員の専門分野が異なることから、事前に事例の共有などを通じて共通認識を構築しておくことが必要ではないかとの意見が寄せられた。その一方で、教員があえて異なる意見を学生たちに提示することで、学生たちに現実の複雑さを認識してもらうことも重要ではないかとの指摘もあった。②前提知識を身に付けてから現地を訪問することで、効果的な学習ができることを実感したという感想が複数の教員から寄せられた。関連して、多様な関心をもつ学生が授業を履修することから、前提知識が不足し現地で上手く情報を処理しきれていない学生がいる場合、配慮や支援が必要との記載もあった。③よい構想・提案をまとめるためには、読んだり聞いたりするだけでなく、実際にまちを歩いて身体感覚を通して地域を捉える作業が欠かせないとの指摘があった。また、地域に詳しい専門家とのまち歩きが効果的だったとの感想も寄せられた。

「観光まちづくりインターンシップ」についても、演習Ⅲと同様に、①事前学修における前提知識をみつけてからの現地訪問の重要性、②現地での身体感覚を通して地域を捉える作業の重要性、さらに、③現地で何を学び、どのような力を身につけるかという明確な目標を立てた上で、計画的に学修や実習を取り組む重要性を確認した。これらを踏まえて、次年度の授業運営を検討している。

5. おわりに

以上、演習Ⅲ及び「観光まちづくりインターンシップ」について検討会議とエクスカーショから得られた知見を整理してきたが、最後に本事業を通して得られた成果を、課題とそれに対応する学生への支援策及び解決策の形式でまとめておく。

第1に、学生の主体的参加を促進するという課題については、グループ編成の工夫や地域のカウンターパートとの関係構築を促す、現場での臨機応変な行動や判断の醸成などの支援策が必要である。第2に、短期間で構想・提案や解決策をまとめなくてはならないという課題に対しては、他の授業との接続や文献資料の活用、実習する地域や団体・組織に関する情報収集に対する支援を通じた事前学修の充実、専門家とのまち歩きなど知識と身体感覚の両方にアプローチする方法の活用などの解決策が検討された。第3に、学生への指示やフィードバックの浸透という課題については、教員間の共通認識の構築や地図を用いた指導の拡充、構想・提案プロセスのブレイクダウンなどの対応策が示された。くわえて、今後の学修や進路への還元など事後学修支援の充実を図る必要があることも明らかになった。

本事業は、検討会議とエクスカーショの2つを事業の柱としたが、検討会議は特に指導を行う教員の目線から、エクスカーショは学生側の目線も踏まえて総合的な視点から検討を進めることができたところが有意義であった。本事業を通して得られた情報は膨大であり、上記の整理では十分に検討できていないものもあ

る。令和7年度の両科目の開講に向けて引き続き分析作業を進め、教育での成果の還元に努めていきたい。

事業の結果・今後の展望・予算執行

【目 的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？(または「今後達成できるか？」)

☒十分達成できた（できる） ☐若干の計画修正の上達成可 ☐大幅な修正の上達成可 ☐達成できない

【内 容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？

☒適切であった ☐概ね適切であった ☐あまり適切でなかった ☐適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を担当教員間で十分に共有・検討しましたか？

☐十分な点検・評価・共有ができた ☒一定の点検・評価・共有ができた

☐点検・評価・共有のどれかが不十分であった ☐点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

【改善・期待される効果】本事業で得た知見は、今後の教授法や授業改善に効果的であるか？

☒とても効果的である ☐効果的である ☐あまり効果的でない ☐効果的でない

【汎用性・波及効果】本事業で得た知見は、本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

☐とても効果的である ☒効果的である ☐あまり効果的でない ☐効果的でない

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

☒適切であった ☐適切ではなかった

別紙7

学部運営委員会

■ 2024年度「教員相互理解／話題提供」について

5／29（水） 西村幸夫先生－歴史的建造物の建て替えについて

10／9（水） ゲストスピーカー／飛騨市まちづくり観光課 竹田課長

10／23（水） 小林裕和先生－『地域旅行ビジネス論』学会賞受賞記念

11／13（水） ゲストスピーカー／湯河原町観光課 宮下課長

12／18（水） 浅野聡先生－伊勢志摩 FD 説明会（行程説明）
ジョルダン・サンド先生－伊勢神宮について

1／15（水） ゲストスピーカー／大崎市観光交流課 安部主幹、中鉢課長、松岡補佐

別紙8

R6 年度「観光まちづくりカフェ」実施状況

*第10回「観光まちづくりカフェ」

実施日時：令和6年6月26日（水）17:00～19:15

講演者：中條 由規 氏 UR都市再生機構

内 容：第1部 講演「地方都市×観光×UR＝サステイナブルなまちづくりへの挑戦
～鹿沼（栃木）、福山（広島）での取り組みから～」＋質疑応答

第2部 トークセッション 中條氏、会場の皆さん、ファシリテーター 黒本剛
史助手

人数：46名（教職員・学生・その他）他オンライン参加教員3名

*第11回「観光まちづくりカフェ」

実施日時：令和6年10月8日（水）17:00～19:15

講演者：河野 博明氏 元（株）野沢温泉社長

内 容：第1部 講演「雪でメシを食う」＋質疑応答

第2部 トークセッション 河野 博明氏×河野 孝典氏（オリンピック金メダリ
スト・現SAJ競技本部長）×神田 昌幸氏（日本オリンピック委員会 評
議員他）、会場の皆さん、ファシリテーター米田教授）

人数：46名（教職員・学生・その他）

*第12回「観光まちづくりカフェ」

実施日時：令和7年3月3日（月）16:00～18:15

講演者：時岡 壮太氏 （株）デキタ社長（福井県若狭市熊川宿）

内 容：第1部 講演「その土地と生きていく。～山村熊川宿での地域づくり～」＋質
疑応答

第2部 トークセッション 時岡 壮太氏×会場の皆さん ファシリテーター 吉見教授

人数：50名（教職員・学生・その他）

以上

観光まちづくり学部設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

國學院大學観光まちづくり学部は、本学で蓄積されてきた日本と日本文化に関する学知を基盤に、「観光」を切り口としながら持続可能な地域を実現するための方法論を「観光まちづくり」という視点から開拓するとともに、その実践を担う人材を養成することを目的として令和4年4月に設置された。

学部の目的を達成するために、以下の取り組みを行った。

1. 入学者の確保

観光まちづくり学部ホームページを立ち上げ、学部の理念・目的、カリキュラム、専任教員等の情報を公開した。また、本学専任職員によって編成している入学アドバイザーが担当高校を訪問し、上記内容について説明を行っている。入学試験は、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りの内容で実施し、入学定員300名に対して令和5年度は360名、令和6年度は313名、令和7年度は328名が入学した。

入学定員を超えた主な要因は、合格者の歩留率が想定以上に高かったためと考えているが、その後は前年度の歩留率の実績から、適正な入学人数の確保が行えたと考えている。次年度以降については、入学志願者及び入学者の確保にあたり、引き続き適正な定員管理の徹底に努めていくとともに、よりレベルの高い入学志願者が期待できるよう、学部運営の充実に向けて取り組んでいきたい。

2. 教員組織

令和5年度に、当初予定されていた全ての専任教員30名が着任し、教員組織は計画通り完成した。また、助手が令和4年度に3名、令和5年度に3名が着任した。なお、令和6年度末に助手1名が他校に転任したが、令和7年度に1名が着任し、総教員数は変わらない。

3. オリエンテーション

新入生に対して、4月1日に教室にて「履修ガイダンス」を実施し、「大学について」「大学の授業の仕組み」「各学科時間割の作成」「時間割の登録」「授業への出席」等について説明を行った。また、同日「専門科目ガイダンス」も実施し、履修ガイダンスの視聴の確認を行うとともに「専門科目の構成」や「大学で求められる力」について説明を行った。4月3日には学部ガイダンスを実施し、専任教員が学部の目的や教育内容に関する説明を行い、4月4日には履修登録に不安を抱える学生を対象として履修に関する個別相談会も実施した。上記のほか、①大学生活ガイダンス、②大学生活トラブル防止ガイダンス、③キャンパスハラスメント防止研修、④図書館ガイダンスを実施し、希望者には①就職に役立つキャリアガイダンス、②留学・国際交流ガイダンスも併せて実施した。

また、2年生に対して、4月3日に「専門科目ガイダンス」と「演習の集い」を開催し、2年次で取り組む演習ⅠⅡの説明や専門ゼミナールの選考方法等の説明を行った。

4. 入学前教育

学校推薦型入試及び総合選抜型入試の入学に対して、課題図書（39 冊）を指定し、その中から任意に 2 冊を選ばせ、読書レポートを提出させた。その他、小論文講座や TOEIC オンライン講座（いずれも有料）も用意し、一般選抜による入学との学力差が生じないよう配慮した。

5. 初年次教育と学修支援

観光まちづくり学部では、1 年次前期に講義科目「まちづくりと観光」「社会学概論」「社会調査法入門」、及び演習科目「導入ゼミナール」を必修科目として配置している。「まちづくりと観光」「社会学概論」は今後 4 年間学修していく観光まちづくりに関する導入科目、「社会調査法入門」は社会調査手法を学ぶ科目であり、これら 3 つの科目により学部の学びの基礎を築く。演習科目「導入ゼミナール」は、学生を 15 名前後の小グループに分け、それぞれに専任教員 1 名を配置し、アカデミックリテラシーを修得させる。また、「導入ゼミナール」の各グループは、クラスルームの機能も有しており、担当教員がきめ細やかな学修支援を行い、後期中等教育から高等教育への接続を円滑にすることを企図している。

学部開設 4 年目となる令和 7 年度の入学についても、同様に「導入ゼミナール」とクラスルームによる学修支援を行っている。クラスルームは 2 年次終了まで継続されており、担当の専任教員が昨年度と同じ学生 15 名前後の学修支援を行っている。

6. 施設・設備の整備状況

観光まちづくり学部に関する施設・設備については、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通りに整備を行った。

7. 地域マネジメント研究センター

「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した通り、令和 4 年度に大学と地域との連携強化を図る「地域マネジメント研究センター」が設置された。地域との共同研究の推進、観光まちづくりライブラリーの運営、包括連携協定の締結、講演会・シンポジウムの開催などを定期的に開催し、機関誌「観光まちづくり」も毎年 1 号ずつ発行している。

8. 教育内容等の改善を図るための組織的な取り組み

前々項「教員の資質の維持向上の方策（FD・SD 活動含む）」の通り、観光まちづくり学部 FD 委員会、観光まちづくり演習運営委員会、観光まちづくり学部ブラッシュアップ委員会の設置、学生による授業評価アンケートの実施などを実施している。

以上のことから設置の趣旨・目的に照らして、令和 7 年 5 月 1 日時点としては当初の計画通りに実施できているものと考えている。